

下水道工事用施工管理基準

令和8年4月

滋賀県琵琶湖環境部

目次

I. 下水道工事用施工管理基準	1
II. 出来形管理基準及び規格値	5
管きょ工（開削）	6
管路土工	6
管布設工	6
管基礎工	7
水路築造工	9
管路土留工	10
管きょ工（小口径推進、推進）	10
小口径推進工、推進工	10
立坑内管布設工	10
管きょ工（シールド）	11
一次覆工	11
二次覆工	11
マンホール工	13
現場打ちマンホール工	13
組立マンホール工	14
小型マンホール工	14
組立・小型マンホール工	14
特殊マンホール工	15
躯体工	15
伏せ越し室・雨水吐室工	15
伏せ越し管工	15
越流堰（雨水吐室）	16
中継ポンプ施設	16
取付管及びます工	17
ます設置工	17
取付管布設工	17
付帯工	18
舗装復旧工	18
道路付属物復旧工	18
立坑工	19
土留工	19
ライナープレート式土留工及び土工	20
鋼製ケーシング式土留工及び土工	21

Ⅲ. 品質管理基準及び規格値	22
基礎工.....	23
管布設工.....	24
管推進工.....	33
シールド工（一次覆工）.....	39
シールド工（二次覆工）.....	41
マンホール設置工.....	43
ます設置工.....	49
薬液注入工.....	51
管路土工.....	51
道路土工.....	51
管防護及び埋戻工.....	52
立坑工.....	53
Ⅳ. 写真管理基準	54
撮影箇所一覧表	58
出来形管理写真撮影箇所一覧表	60
管きょ工（開削）.....	60
管路土工.....	60
管布設工.....	60
管基礎工.....	60
水路築造工.....	62
管路土留工.....	62
管きょ工（小口径推進、推進）.....	62
推進工.....	62
立坑内管布設工.....	62
管きょ工（シールド）.....	63
一次覆工.....	63
二次覆工.....	63
マンホール工.....	63
現場打ちマンホール工.....	63
組立マンホール工.....	64
小型マンホール工.....	64
組立・小型マンホール工.....	64
特殊マンホール工.....	65
躯体工.....	65
伏せ越し室・雨水吐室工.....	65
伏せ越し管工.....	65
越流堰（雨水吐室）.....	65
中継ポンプ施設.....	66
取付管及びます工.....	66

ます設置工.....	66
取付管布設工.....	66
付帯工.....	66
舗装復旧工.....	66
道路付属物復旧工.....	66
立坑工.....	67
土留工.....	67
ライナープレート式土留工及び土工.....	68
鋼製ケーシング式土留工及び土工.....	68
品質管理写真撮影箇所一覧表.....	70
管布設工.....	70
管推進工・小口径推進工.....	70
シールド工（管きょ材料）.....	71
一次覆工.....	72
二次覆工.....	72
マンホール設置工.....	72
ます設置工.....	73
薬液注入工.....	73
管路土工.....	74
管路土留工.....	74
立坑工.....	74
立坑土工.....	74
施工状況写真撮影箇所一覧表.....	75
管路土工.....	75
管布設工.....	75
管基礎工.....	76
管路土留工.....	76
小口径推進工.....	76
推進工.....	77
一次覆工.....	78
二次覆工.....	78
標準マンホール工.....	79
組立マンホール工.....	79
小型マンホール工.....	79
特殊マンホール工.....	80
取付管及びます工.....	80
舗装復旧工.....	80
立坑工.....	81
立坑土工.....	81

仮設工	82
V. 出来形成果表	83
硬質塩化ビニル管布設日常管理表	84
リブ付硬質塩化ビニル管布設日常管理表	86
開削土工出来形成果表	88
推進工法出来形成果表	90
小口径推進出来形成果表	91
空伏工出来形成果表	92
管きょ及びマンホール出来形成果表	93
一次覆工出来形成果表	94
二次覆工出来形成果表	96
F R P M二次覆工出来形成果表	99
現場打ちマンホール出来形成果表	101
組立マンホール出来形成果表	102
公共ます及び取付管出来形成果表	105
鋼矢板立坑出来形成果表	107
ライナープレート式立坑出来形成果表	110
鋼製ケーシング式立坑出来形成果表	113
VI. 施工管理資料	115
工事材料品質証明書類一覧	116
日本下水道協会認定工場製品添付書類一覧	121
施工計画書記載事項一覧	122
検査書類一覧	123
数量総括表	126
資材入荷集計表	127
資材検収表	128
薬液注入工施工管理資料	129
ウェルポイント運転日報	134
VII. その他資料	135
施工管理本下水道協会認定工場製品等一覧	136

I . 下水道工事用施工管理基準

I. 下水道工事用施工管理基準

この下水道工事用施工管理基準（以下「管理基準」という。）は、一般土木工事等共通仕様書（令和7年10月 滋賀県）第1編1-1-1-25「施工管理」に規定する下水道土木工事の施工管理および規格値の基準を定めたものである。

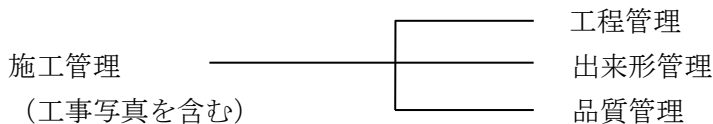
1. 目的

この管理基準は、下水道土木工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形および品質の確保を図ることを目的とする。

2. 適用

この管理基準は、滋賀県琵琶湖環境部が発注する下水道土木工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合、または、基準が定められていない工種については、土木工事施工管理基準及び規格値（案）（令和7年4月 近畿地方整備局）によるほか、別途監督職員と協議のうえ、施工管理を行うものとする。

3. 構成



4. 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画および施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、別添「施工管理資料」を参考に、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定（試験）等を工事の実施と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

5. 管理項目および方法

(1) 工程管理

受注者は、工事内容にて適切な工程管理（ネットワーク、バーチャート方式など）を行うものとする。

ただし、応急処理または維持管理等の当初計画の困難な工事内容については、省略できる

ものとする。

(2) 出来形管理（Ⅱ．出来形管理基準および規格値参照）

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目および測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形成果表または出来形図を作成し管理するものとする。なお、測定基準において測定箇所数「〇〇につき 1 ヶ所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数測定するものとする。

(3) 品質管理（Ⅲ．品質管理基準および規格値参照）

受注者は、品質管理基準に定める試験項目、試験方法および試験基準により管理するものとする。

この品質管理基準の適用は、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準および品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. 工事写真

(1) 工事写真

受注者は、施工管理の手段として、各工事の施工段階および工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により、撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

(2) 情報化施工

10,000m³以上の土工の出来形管理については、「情報化施工技術の使用原則化について」（平成 25 年 3 月 15 日付け国官技第 291 号、国総公第 133 号）による。

ただし、「TS を用いた出来形管理要領（土工編）」は「TS 等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」に読み替えるものとし、「TS を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川土工編）」及び「TS を用いた出来形管理の監督・検査要領（道路土工編）」は「TS 等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）」に読み替えるものとする。

(3) 3次元データによる出来形管理

土工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS 等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」又は「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定によるものとする。

また、舗装工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」又は「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」の規定によるものとする。

なお、ここでいう3次元データとは、工事目的あるいは現地地形の形状を3次元空間上に再現するために必要なデータである。

(4) 施工箇所が点在する工事について

施工箇所が点在する工事については、施工箇所毎に測定（試験）基準を設定するものとする。

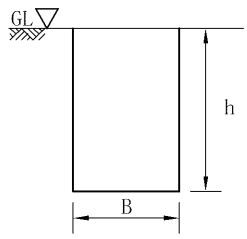
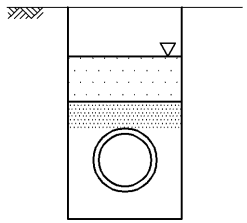
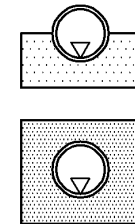
なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議しなければならない。

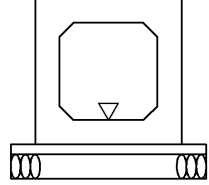
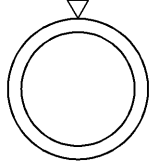
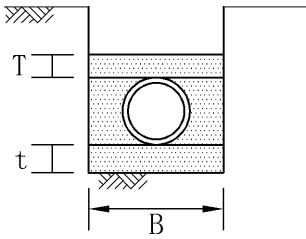
8. その他

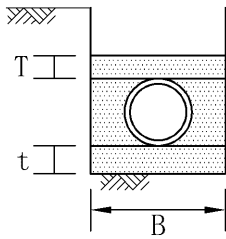
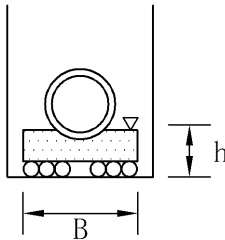
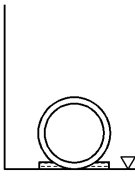
この管理基準の構成は次のとおりとする。

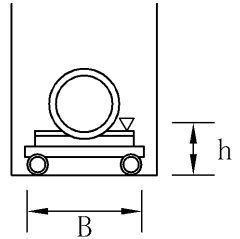
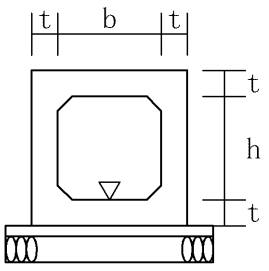
- ・ 出来形管理基準及び規格値
- ・ 品質管理基準及び規格値
- ・ 写真管理基準
- ・ 出来形成果表
- ・ 施工管理資料

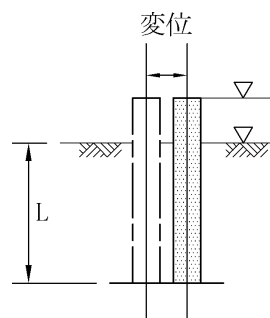
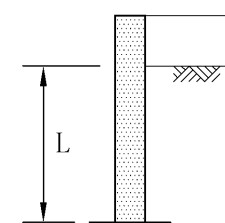
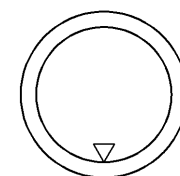
Ⅱ. 出来形管理基準及び規格値

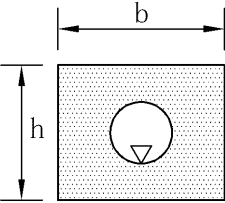
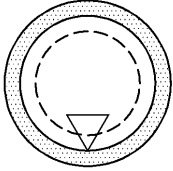
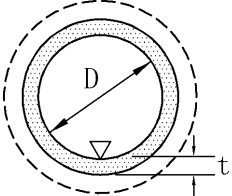
章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	3 管きよ工 (開削)	3 管路土工		管路掘削	深 さ h	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。		出来形成果表を作成する。
					幅 B	-50			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	3 管路土工		管路埋戻	基 準 高 ▽	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。		出来形成果表を作成する。
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	1	管布設 (自然流下管)	基 準 高 ▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の両端部を測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位 (水平)	±50			
					勾 配	±20%			
					延 長 ℓ	-ℓ/500 かつ -200	延長ℓはマンホール間を測定する。		
					総 延 長 L	-200			

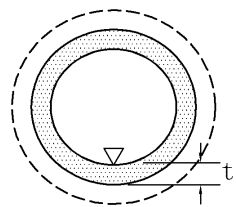
章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	2	矩形きよ (プレキャスト)	基準高 ▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長20mに1箇所割合で測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位(水平)	±50			
					勾配	±20%			
					延長ℓ	-ℓ/500かつ-200			
					総延長L	-200			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	3	圧送管	基準高 ▽	±30	施工延長40mに1箇所割合で測定する。		出来形成果表を作成する。
					管頂	±50			
					総延長L	-200			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	1	砂防護・砂基礎	砂基礎厚 t	-30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		出来形成果表を作成する。
					砂基礎幅 B	-50			
					管防護砂厚 T	-30			

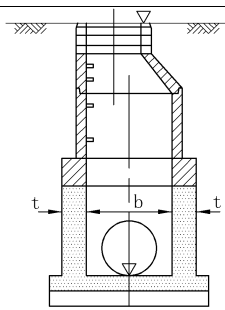
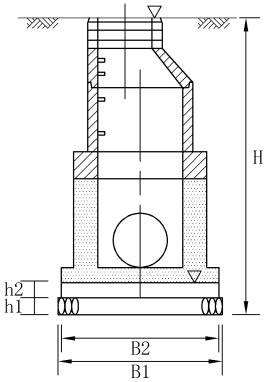
章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	2	砕石防護・砕石基礎	砕石基礎厚 t	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		出来形成果表を作成する。
					砕石基礎幅 B	-50			
					管防護砕石厚 T	-30			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	3	コンクリート基礎	基準高 ▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
					幅 B	-30			
					厚さ h	-30			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	4	まくら土台基礎	基準高 ▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		

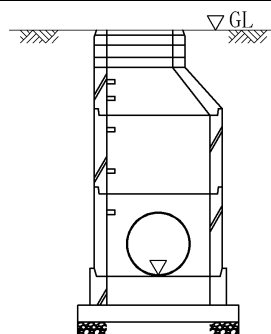
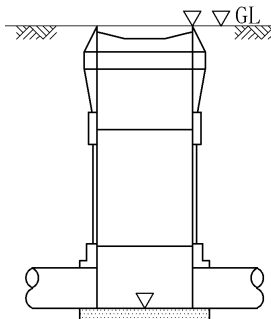
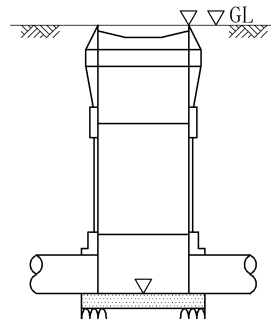
章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	5	はしご胴木基礎	基準高 ∇	± 30	各マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
					幅 B	-30			
					厚さ h	-30			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	6 水路築造工		現場打水路	基準高 ∇	± 30	基準高、中心線の変位(水平)、幅、高さ、厚さは、1打設長ごとに両端部等を測定する。1打設長が20m以上の場合は、20mに1箇所割合で測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位 (水平)	± 50			
					幅 b	-30			
					高さ h	± 30			
					厚さ t	-20			
					勾配	$\pm 20\%$			
					延長 ℓ	$-\ell/500$ かつ -200			
					総延長 L	-200			

章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	3 管きよ工 (開削)	7 管路土留工	1	鋼矢板土留	基準高 ▽	±50	施工延長 20m につき 1 箇所測定する。 20m 未満は、1 施工箇所につき 2 箇所測定する。		任意仮設は除く。
					根入長 L	設計値以上			
					変位	100			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	7 管路土留工	2	土留・仮締切工	根入長 L	設計値以上	施工延長 20m につき 1 箇所測定する。 20m 未満は、1 施工箇所につき 2 箇所測定する。		任意仮設は除く。
1 管路	4.5 管きよ工 (小口径推進、推進)	3 小口径推進工 推進工		小口径推進工 推進工	基準高 ▽	±50	基準高、中心線の変位（水平）は推進管 1 本ごとに測定する。 延長 ℓ はマンホール間を測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位 (水平)	±50			
					勾配	±20%			
					延長 ℓ	-ℓ/500 かつ -200			
					総延長 L	-200			

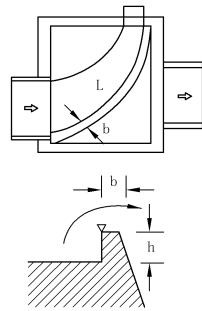
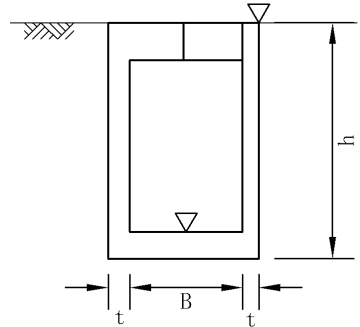
章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	4.5 管きよ工 (小口径推進、推進)	4 立坑内管布設工		空伏工	基準高 ∇	± 50	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。
					幅 b	-30			
					高さ h	-30			
					中心のずれ	± 50			
					延長	-50			
					勾配	$\pm 20\%$			
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	3 一次覆工		掘進工	基準高 ∇	± 50	基準高、中心線の変位（水平）はセグメント5リングにつき1箇所測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位（水平）	± 100			
					延長 ℓ	$-\ell/500$ かつ -200	延長 ℓ はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	4 二次覆工	1	二次覆工	基準高 ∇	± 20	基準高、中心線の変位（水平）は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		出来形成果表を作成する。
					中心線の変位（水平）	± 50			
					仕上り内径 D	± 20	仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
					二次覆工厚 t	-20	二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。		
					勾配	$\pm 20\%$			
					延長 ℓ	$-\ell/500$ かつ -200	延長 ℓ はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			

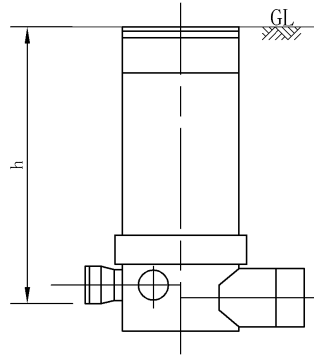
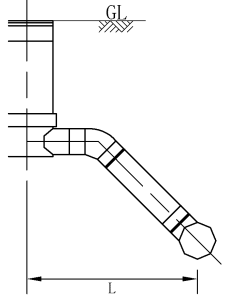
章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	4 二次覆工	2	二次覆工 (強化プラスチック 複合管)	基 準 高 ∇	± 20	基準高の変位（水平）は、施工延長 40m につき 1 箇所測定する。		出来形成果表を作成する。
					基準高の変位 (水平)	± 50			
					仕上り内径 D	± 20	仕上がり内径は、施工延長 40m につき 1 箇所測定する。		
					二次覆工厚 t	-20	二次覆工厚は、1 打設につき端面で上下左右 4 点を測定する。		
					た わ み 率	$\pm 5\%$	施工延長 50m に 1 箇所の割合で、管据付時および中込材注入後に定尺管の中央部を測定する。		
					継 手 隙 間 t	FRPM 管によるシールド二次覆工技術マニュアル ((財)下水道新技術推進機構) による	FRPM 管 1 本設置ごとに端面で上下左右 4 点を測定する。		
					勾 配	$\pm 20\%$			
					延 長 ℓ	$-\ell/500$ かつ -200	延長 ℓ はマンホール間を測定する。		
					総 延 長 L	-200			

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	7 マンホール工	3 現場打ちマンホール工	1	現場打ちマンホール工	基 準 高 ∇	※	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。 ※は当該管布設工法の基準高の規格値による。
					幅 b (内法)	-30			
					壁 厚 t	-20			
					人孔天端高	±30			
1 管路	7 マンホール工	3 現場打ちマンホール工	2	マンホール基礎工	基 準 高 ∇	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。
					床 掘 深 H	±30			
					基礎工幅 B1	-50			
					基礎工高 h1	-30			
					コンクリート工幅 B2	-30			
					コンクリート工高 h2	-10			

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	7 マンホール工	4 組立マンホール工		組立マンホール工	基 準 高 ∇	※	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。 ※は当該管布設工法の基準高の規格値による。
					人孔天端高	±30			
1 管路	7 マンホール工	5 小型マンホール工		小型マンホール工	基 準 高 ∇	※	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。 ※は当該管布設工法の基準高の規格値による。
					人孔天端高	±30			
1 管路	7 マンホール工	4・5 組立・小型マンホール工		組立・小型マンホール基礎工	床 掘 深 H	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。
					敷モルタル幅 b	-50			
					敷モルタル高 h	-0			

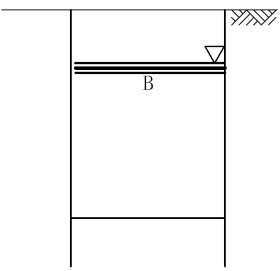
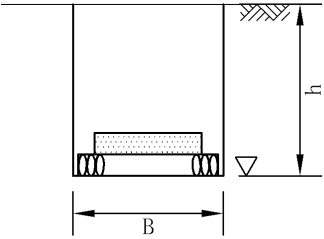
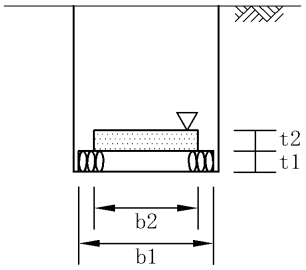
章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	8 特殊マンホール工	4 躯体工		現場打ち特殊人孔	基準高 ∇	※	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。 ※は当該管布設工法の基準高の規格値による。
					幅 B (内法)	-30			
					高さ h (内法)	±30			
					壁厚 t	-20			
					人孔天端高	±30			
1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し室・雨水吐室		伏せ越し室・雨水吐室	基準高 ∇	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。
					幅 b (内法)	±30			
					高さ h (内法)	±30			
					厚さ t	-20			
1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し管工		伏せ越し管	基準高 ∇	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
					中心線の変位	±30			

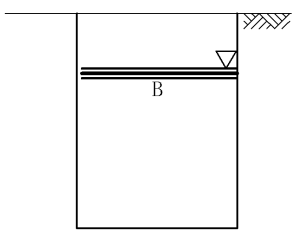
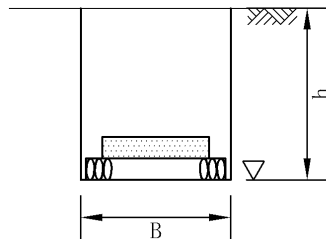
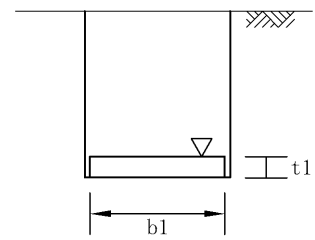
章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	8 特殊マンホール工	越流堰 (雨水吐室)		越流堰 (雨水吐室)	基 準 高 ∇	± 10	基準高は、中央部および両端部を測定する。 幅、高さ、延長は1施工箇所ごとに測定する。		
					幅 b (厚さ)	± 20			
					高さ h (深さ)	± 30			
					延長 L (長さ)	-20			
1 管路	8 特殊マンホール工			中継ポンプ施設	基 準 高 ∇	± 30	1 施工箇所ごとに測定する。		
					幅、長さ B	-30			
					深 さ h	-30			
					壁 厚 t	-20			

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	9 取付管及びびます工	4 ます設置工		公共ます	ます 深 h	-30	1 施工箇所ごとに測定する。		
1 管路	9 取付管及びびます工	5 取付管布設工		取付管	延長 L	-200	1 施工箇所ごとに測定する。		出来形成果表を作成する。

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	1	舗装復旧工 (下層路盤工)	厚 さ	-45	マンホール間ごとに1箇所測定する。		下水道工事の 仮復旧に適用 する。 出来形成果表 を作成する。
					幅	-50			
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	2	舗装復旧工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	マンホール間ごとに1箇所測定する。		下水道工事の 仮復旧に適用 する。 出来形成果表 を作成する。
					幅	-50			
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	3	舗装復旧工 (表層工)	厚 さ	-7	マンホール間ごとに1箇所測定する。		下水道工事の 仮復旧に適用 する。 出来形成果表 を作成する。
					幅	-25			
1 管路	10 付帯工	7 道路付属物復旧工		道路付属物復旧工 (区画線工)	延 長	-200			下水道工事の 仮復旧に適用 する。

章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	11 立坑工	4 土留工	1	立坑工 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (H鋼杭)	基準高 ∇	± 30	全数測定する。 (基準点は4隅と中央の5点の平均とする。)		出来形成果表 を作成する。
					寸法 B	± 100			
					深さ h	± 30			
1 管路	11 立坑工	4 土留工	2	立坑土工	基準高 ∇	± 30	全数測定する。 (基準点は4隅と中央の5点の平均とする。)		出来形成果表 を作成する。
					砕石基礎幅 b1	-50			
					砕石基礎厚 t1	-30			
					底版コンクリート基準高	± 30			
					底版コンクリート幅 b2	-30			
					底版コンクリート厚 t2	-10			
1 管路	11 立坑工	4 土留工	3	矢板工	根入長 L	設計値以上	施工延長 20m につき 1 箇所測定する。 20m 未満は、1 施工箇所につき 2 箇所測定する。		出来形成果表 を作成する。

章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	11 立坑工	4 土留工	4	支保工	基準高 ∇	± 100	基準高は、ブラケット高4点以上測定し、支点位置を算出、各部材長は実測する。		出来形成果表を作成する。
					部材長 B	± 100			
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	1	立坑工 (ライナープレート式土留工)	基準高 ∇	± 30	全数測定する。 (基準点は4隅と中央の5点の平均とする。)		出来形成果表を作成する。
					寸法 B	± 100			
					高さ h	± 30			
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	2	立坑土工	基準高 ∇	± 30	全数測定する。 (基準点は4隅と中央の5点の平均とする。)		出来形成果表を作成する。
					砕石基礎幅 b1	-50			
					砕石基礎厚 t1	-30			
					底版コンクリート基準高	± 30			
					底版コンクリート幅 b2	-30			
					底版コンクリート厚 t2	-10			

章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	3	支保工 (補強リング含む)	基準高 ▽	±100	基準高は、ブラケット高4点以上測定し、支点位置を算出、各部材長は実測する。		出来形成果表を作成する。
					部材長 B	±100			
1 管路	11 立坑工	6 鋼製ケーシング式 土留工及び土工	1	立坑工 (鋼製ケーシング式土留工)	基準高 ▽	±30	全数測定する。		出来形成果表を作成する。
					寸法 B	±100			
					深さ h	±30			
1 管路	11 立坑工	6 鋼製ケーシング式 土留工及び土工櫃	2	立坑土工	基準高 ▽	±30	全数測定する。 (基準点は4隅と中央の5点の平均とする。)		出来形成果表を作成する。
					底版コンクリート基準高	±30			
					底版コンクリート幅 b1	-30			
					底版コンクリート厚 t1	-10			

第2章 処理場・ポンプ場については、日本下水道協会「下水道土木工事必携」に準拠するものとする。

第3章 機械電気設備工については、日本下水道事業団「機械設備工事必携」および「電気設備工事必携」に準拠するものとする。

Ⅲ. 品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
基礎工	材料(砂)	必須	土の粒度試験	JIS A 1204	75 μ mふるい通過量 10%以下	材料の使用前「試験成績表」を提出する。		○
	材料(砕石C40)	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 の規格に適合すること。	材料の使用前「試験成績表」を提出する。		○
	材料(割栗石)	必須	比重、吸水率、圧縮強さ		JIS A 5006 の規格に適合すること。	材料の使用前「試験成績表」を提出する。		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認								
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用鉄筋コンクリート管)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。	(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、外圧強さ、水密性は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○								
			形状・寸法 (カラー及びゴム輪を含む)	JSWAS A-1 による												
			外圧強さ		<table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管軸方向へのひび割れ</td> <td>管の長さ方向で管長の 1/4 以上 (短管及び異形管の場合は 1/3 以上) にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。</td> </tr> <tr> <td>管周方向のひび割れ</td> <td>管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。</td> </tr> <tr> <td>管端面の欠損</td> <td>管端面の平面積の 3% 以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。</td> </tr> </tbody> </table>				検査項目	判定基準	管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上 (短管及び異形管の場合は 1/3 以上) にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。	管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。	管端面の欠損	管端面の平面積の 3% 以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。
			検査項目	判定基準												
			管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上 (短管及び異形管の場合は 1/3 以上) にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。												
管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。															
管端面の欠損	管端面の平面積の 3% 以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。															
水密性																

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、偏平試験、耐薬品性試験及びピカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法	JSWAS K-1 による	検査項目	判定基準			
			引張試験		有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)			
			偏平試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。			
			負圧試験		割れ	割れないこと。			
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。			
			ピカット軟化温度試験		管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない			
					実用上の真っすぐ	実用上、真っすぐであること。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用リブ付硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、偏平試験、耐薬品性試験及びピカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法	JSWAS K-13による	検査項目	判定基準			
			引張試験		有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)			
			偏平試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。			
			負圧試験		割れ	割れないこと。			
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。			
			ピカット軟化温度試験		管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。			
					実用上の真っすぐ	実用上、真っすぐであること。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認										
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用強化プラスチック複合管)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。	(1) 外観検査・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験及び水密試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○										
			寸法	JSWAS K-2 による														
			外圧試験		<table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有害な傷</td> <td>管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。</td> </tr> <tr> <td>滑らかさ</td> <td>明らかな凹凸がないこと。</td> </tr> <tr> <td>管の断面形状</td> <td>管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。</td> </tr> <tr> <td>実用上の真っすぐ</td> <td>実用上、真っすぐであること。</td> </tr> </tbody> </table>				検査項目	判定基準	有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。	滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。	管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。	実用上の真っすぐ	実用上、真っすぐであること。
			検査項目	判定基準														
			有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。														
			滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。														
			管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。														
実用上の真っすぐ	実用上、真っすぐであること。																	
耐薬品性試験																		
耐酸試験																		
水密試験																		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用ポリエチレン管)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、偏平試験、水圧試験、偏平負圧試験、耐薬品性試験、環境応力き裂試験、熱間内圧クリープ試験、ピーリング試験、熱安定性試験、融着部相溶性試験、対候性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法	JSWAS K-14による	検査項目	判定基準			
			引張試験		有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。			
			偏平試験						
			水圧試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。			
			偏平負圧試験		割れ	割れないこと。			
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。			
			環境応力き裂試験		管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない			
			熱間内圧クリープ試験						
			ピーリング試験		実用上の真つすぐ	実用上、真つすぐであること。			
			熱安定性試験						
			融着部相溶性試験						
			対候性試験						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認								
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用レジンコンクリート管)	必須	外観・形状および寸法	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。	(1) 外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法及び外圧強さ、水密性は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○								
			外圧試験	JSWAS K-11 による												
			水密性試験		<table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管軸方向へのひび割れ</td> <td>管の長さ方向で管長の 1/4 以上(短管及び異形管の場合は 1/3 以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。</td> </tr> <tr> <td>管周方向のひび割れ</td> <td>管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。</td> </tr> <tr> <td>管端面の欠損</td> <td>管端面の平面積の 3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。</td> </tr> </tbody> </table>				検査項目	判定基準	管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上(短管及び異形管の場合は 1/3 以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。	管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。	管端面の欠損	管端面の平面積の 3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。
			検査項目	判定基準												
			管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上(短管及び異形管の場合は 1/3 以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。												
			管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。												
管端面の欠損	管端面の平面積の 3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。															
耐酸性試験																
吸水性試験																

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管布設工 (開削)	管きよ材料 (下水道用ボックスカルバート)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法及びコンクリートの圧縮強度試験、曲げ強度試験、接合部の水密性試験については日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			形状・寸法	JSWAS K-12、 JSWAS K-13 による					
			コンクリートの圧縮強度試験		検査項目	判定基準			
			曲げ強度試験		ひび割れ	強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷やひび割れないこと。			
			接合部の水密性試験		滑らかさ	粗骨材が突出していたり、抜け出した跡がなく、仕上げ面が極度に凹凸になっていないこと。内面が平滑であり、水の流れに対して実用上支障のない滑らかさであること。			
					端面の欠損	端面の表面積の3%以上が欠損していないこと。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管布設工(開削)	管きよ材料(下水道用ダクタイル鋳鉄管)	必須	原管	JSWAS G-1による			(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法及び引張試験、硬さ試験、水圧試験については日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○	
			内装							
			外装	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。				
			形状・寸法	JSWAS G-1による	検査項目	判定基準				
			引張試験	原管	クラック	クラックがないこと。				
					湯境	湯境がないこと。				
					鑄巣	手直しの範囲を超えるものは不可とする。				
			硬さ試験	完成管	モルタルライニング	有害なひび割れがないこと。 管の受け口内面にモルタルが付着していないこと。				
					水圧試験	表面は実用的に滑らかであること。				
				塗装	異物の混入塗りむらなどがなく、均一な塗膜であること。					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認		
管布設工 (開削)	管きよ材料 (鋼管)	必須	外観	目視による	〔外観検査〕 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、成分・機械的性質等は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○	
			形状・寸法		日本下水道協会 下水道用資器材 I 類の 規定による JIS G 3443	検査項目				判定基準
			成分・機械的性質		原 管	実用的に 真っ直ぐ				実用的に真っ直ぐであること。
			非破壊又は水圧			両端は管軸 に対して直 角				実用的に両端面は管軸に対して 直角であること。
						有害な欠陥				はなはだしい接合部の目違い、 アンダーカット、溶接ビードの 不整がないこと。
						仕上げ良好				鋼面が平滑に仕上がっていること。
			塗装		完成 管	塗装及び塗 覆装				管によく密着し、実用上平滑 で、有害なふくれ、へこみ、し わ、たれ、突部、異物の混入な どがないこと。

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
管推進工 (小口径推進・推進)	管きよ材料 (下水道推進工法用鉄筋コンクリート管)	必須	外観・形状	目視による	〔外観検査〕 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。		(1) 外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、外圧強さ、コンクリートの圧縮強度及び水密性は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法 (カラー及びゴム輪含む)	JSWAS A-2 又は A-6 による	(2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。				
			外圧強さ		検査項目	判定基準			
			コンクリートの圧縮強度		管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上(短管及び異形管の場合は 1/3 以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であつても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。			
			水密性		管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。			
					管端面の欠損	管端面の平面積の 3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認		
管推進工 (小口径推進・推進)	管きよ材料 (下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管)	必須	原管	JSWAS G-2による	〔外観検査〕 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は、全数について行う。 (2) 原管、内装、外装における形状・寸法は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○	
			内装							
		外装	外観	目視による	検査項目	判定基準				
				形状・寸法	JSWAS G-2による	原管				クラック
			湯境							湯境がないこと。
			鑄巣							手直しの範囲を超えるものは不可とする。
			完成管	モルタルライニング	有害なひび割れがないこと。					
					管の受け口内面にモルタルが付着していないこと。					
					表面は実用的に滑らかであること。					
			塗装	異物の混入塗りむらなどがなく、均一な塗膜であること。						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認			
管推進工 (小口径推進・推進)	管きよ材料 (鋼管)	必須	外観	目視による	〔外観検査〕 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。		(1) 外観検査は全数について行う。		○		
			形状・寸法		日本下水道協会 下水道用資器材 I 類の規定による JIS G 3444					(2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。	(2) 形状・寸法、成分・機械的性質等は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。
			成分・機械的性質		検査項目	判定基準					
			非破壊又は水圧		原管	実用的に真っ直ぐ				実用的に真っ直ぐであること。	
			塗装		両端は管軸に対して直角	実用的に両端面は管軸に対して直角であること。					
					有害な欠陥	はなはだしい接合部の目違い、アンダーカット、溶接ビードの不整がないこと。					
仕上げ良好	鋼面が平滑に仕上がっていること。										
完成管	塗装及び塗覆装	管によく密着し、実用上平滑で、有害なふくれ、へこみ、しわ、たれ、突部、異物の混入がないこと。									

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
小口径推進工	管きよ材料 (推進工法用硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、偏平試験、圧縮試験、負圧試験、耐薬品性試験及びビカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法	JSWAS K-6による					
			引張試験		検査項目	判定基準			
					有害な傷	管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)			
			偏平試験						
			圧縮試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。			
			負圧試験		割れ	割れないこと。			
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。			
			ビカット軟化温度試験		管の断面形状	管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。			
					実用上の真っすぐ	実用上、真っすぐであること。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	概要	試験成績書等による確認	
推進工	管きよ材料 (推進工法用ガラス繊維鉄筋コンクリート管)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、外圧試験、内圧強度試験、コンクリートの圧縮強度試験、水密性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			形状・寸法 (カラーおよびゴム輪を含む)	JSWAS A-8 による	検査項目	判定基準			
			外圧試験		管軸方向へのひび割れ	管の長さ方向で管長の 1/4 以上(短管及び異形管の場合は 1/3 以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の 1/4 以下であっても管長の 1/10 程度のひび割れが複数あつてはならない。ここで、ひび割れとは、乾燥収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れをも含むものであり、直線性のものを指す。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。			
			内圧強度試験		管周方向のひび割れ	管周の方向で、管周の 1/10 以上にわたるひび割れがないこと。			
			コンクリートの圧縮強度試験		管端面の欠損	管端面の平面積の 3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。			
			水密試験						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
管推進工 (小口径推進・推進)	管きよ材料 (添加剤等)	必須	配合試験	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時	滑材、添加材、中込め充填材および裏込材に適用する。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
シールド工 (二次覆工)	管きよ材料 (シールド工事用標準コンクリート系セグメント)	必須	外観及び形状・寸法検査	JSWAS A-4 による	[外観検査] (日本下水道協会規格)		セグメントには次の項目が表示されていること。 ・製造会社マークおよび製造工場名 ・セグメントの種別 ・製造年月 ・検査合格の証 (協会認定標章)	○	
			性能検査		水平仮組検査	(1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。			(1) 外観検査は全数について行う。
						(2) 有害なひび割れ、隅角部の破損等が無いこと。			(2) 形状・寸法、水平仮組、性能についての検査は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。
						[外観検査] (日本下水道協会規格外)			
						(1) 有害なひび割れ、隅角部の破損等が無いこと。			(1) 外観検査は全数について行う。
単体曲げ試験	(2) 形状・寸法、水平仮組、性能に関する規格値は JSWAS A-4 の規定による。	(2) 形状・寸法、水平仮組、性能についての検査は、セグメント 500 リング及びその端数に 1 回行う。							
継手曲げ試験									
ジャッキ推力試験									
つり手金具引抜き試験									

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
シールド工 (二次覆工)	管きよ材料 (シールド工専用標準標準鋼製セグメント)	必須	材料検査	JSWAS A-3 による	[外観検査] (日本下水道協会規格)		セグメントには次の項目が表示されていること。 ・製造会社マークおよび製造工場名 ・セグメントの種別 ・製造年月 ・検査合格の証 (協会認定標章)	○	
			形状・寸法及び外観検査		(1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。	(1) 外観検査は全数について行う。			
					(2) 有害な曲がり、そり等が無いこと。	(2) 材料、形状・寸法、溶接、水平仮組についての検査は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 (3) 性能検査は設計図書のためによる。			
			溶接検査		[外観検査] (日本下水道協会規格外)				(1) 外観検査は全数について行う。
			水平仮組検査		(1) 有害な曲がり、そり等が無いこと。	(2) 材料、形状・寸法、溶接、水平仮組、性能に関する規格値は JSWAS A-3 の規定による。			(2) 材料、形状・寸法、溶接、水平仮組、性能についての検査は、1 工事中に 1 回行う。
			性能検査		ジャッキ推力試験				
	単体曲げ試験								

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
シールド工 (二次覆工)	材料 (強化プラスチック複合管)	必須	外観	目視による	[外観検査] (日本下水道協会規格)			○
			形状・寸法	JSWAS K-16による	(1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。	(1) 外観検査は全数について行う。		
			外圧試験		(2) 形状・寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験、水密試験は JSWAS K-16 による。	(2) 形状・寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験、水密試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		
			基準たわみ外圧試験		[外観検査] (日本下水道協会規格外)			
			破壊外圧試験		(1) 有害なひび割れ等がないこと。	(1) 外観検査は全数について行う。		
			耐薬品性試験		(2) 形状・寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験、水密試験は JSWAS K-16 による。	(2) 形状・寸法、外圧試験、耐薬品性試験、耐酸性試験、水密試験は監督員の指示による。		
			耐酸試験					
			水密試験					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
一次覆工	材料(添加剤等)	必須	配合試験	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時	添加材、裏込材に適用する。	
二次覆工	材料(中込材)	必須	一軸圧縮強度	FRPM管によるシールド二次覆工技術マニュアル ((財)下水道新技術推進機構)による	1.0N/mm ² 以上(材令28日以上)	測定は1日/回、注入前に行うこととする。 なお、配合試験を行う。		○
			生比重		0.70~0.90			
			フロー値		170~240mm			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
マンホール設置工	管きよ材料 (組立マンホール側塊)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、コンクリートの圧縮強度試験、軸方向体耐圧試験、接合部の水密性試験、側方曲げ強さ試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			形状・寸法	JSWAS A-11 による					
			コンクリートの圧縮強度試験		検査項目	判定基準			
					有害な傷	部材は、強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷がないこと。			
			軸方向耐圧試験						
			接合部の水密性試験		滑らかさ	部材には、粗骨材が突き出していたり、抜け出した跡がなく、仕上げ面が極度に凹凸になっていないこと。			
			側方曲げ強さ試験		端面の欠損	部材の端面は、その面積の3%以上が欠損していないこと。			
		端面の形状	部材の端面は平滑であり、部材の軸方向に対して、実用上支障のない直角であること。						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
マンホール設置工	管きよ材料(下水道用鑄鉄製マンホールふた)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 有害なきずが無く、外観がよいこと。	(1) 外観・形状検査は全数について行う。 (2) 寸法・構造、材質試験、荷重たわみ試験及び耐荷重試験は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法・構造	JSWAS G-4 による				
			材質試験					
			荷重たわみ試験					
			耐荷重試験					
	管きよ材料(マンホール足掛け金物)	必須	外観	目視による	[外観検査] 被覆材は有害なわれ、破損等がないこと。	外観検査は全数について行う。		○
			形状・寸法		品質を判定できる資料または試験成績表を提出する。	(1) 芯材 JIS G 4303(SUS403,SUS304)、 JIS G 3507(SWRCH12R、SWCH12R) JIS G 3539(SWCH12R) の規格に適合すること。		
			材質					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
マンホール設置工	管きよ材料(鉄筋コンクリート製小型組立マンホール)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、コンクリートの圧縮強度試験、軸方向耐圧試験、接合部の水密性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。	
			形状・寸法	JSWAS A-10 による 内ふたは JSWAS K-7、 防護ふたは JSWAS G-3 による	検査項目	判定基準		
			コンクリートの圧縮強度試験	有害な傷	部材は、強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷がないこと。			
			軸方向耐圧試験	滑らかさ	部材には、粗骨材が突き出していたり、抜け出した跡がなく、仕上げ面が極度に凹凸になっていないこと。			
			接合部の水密性試験	端面の欠損	部材の端面は、その面積の3%以上が欠損していないこと。			
				端面の形状	部材の端面は平滑であり、部材の軸方向に対して、実用上支障のない直角であること。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
マンホール設置工	管きよ材料(下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観・形状検査は全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、負荷試験、耐薬品性試験及びビカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。	
			寸法	JSWAS K-9 による 内ふたは JSWAS K-7、 防護ふたは JSWAS G-3 による	検査項目	判定基準		
			引張試験		有害な傷	マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)		
			荷重試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。		
			負圧試験		割れ	割れないこと。		
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。		
			ビカット軟化温度試験					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
マンホール設置工	管きよ材料 (レジンコンクリート製マンホール)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、圧縮強度試験、耐酸性試験、吸水性試験、軸方向耐圧試験、接合部の水密性試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			形状・寸法	JSWAS K-10 による ふたは JSWAS G-4 による	検査項目	判定基準			
			圧縮強度試験		有害な傷	部材は、強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷がないこと。			
			耐酸性試験						
			吸水性試験		滑らかさ	部材には、粗骨材が突き出していたり、抜け出した跡がなく、仕上げ面が極度に凹凸になっていないこと。			
			軸方向耐圧試験						
			接合部の水密性試験		端面の欠損	部材の端面は、その面積の3%以上が欠損していないこと。			
					端面の形状	部材の端面は平滑であり、部材の軸方向に対して、実用上支障のない直角であること。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認											
マンホール設置工	管きよ材料(硬質塩化ビニル製リップ付小型マンホール)	必須	外観	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観検査は全数について行う。 (2) 形状・寸法、引張試験、荷重試験、負圧試験、耐薬品性試験、ピカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○										
			形状・寸法	SWAS K-17による 内ふたは JSWAS K-7、 防護ふたは JSWAS G-3、 立上り部は JSWAS K-9 による	<table border="1"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有害な傷</td> <td>マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)</td> </tr> <tr> <td>滑らかさ</td> <td>明らかな凹凸がないこと。</td> </tr> <tr> <td>割れ</td> <td>割れないこと。</td> </tr> <tr> <td>ねじれ</td> <td>著しいねじれがないこと。</td> </tr> </tbody> </table>					検査項目	判定基準	有害な傷	マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)	滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。	割れ	割れないこと。	ねじれ	著しいねじれがないこと。
			検査項目		判定基準														
			有害な傷		マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)														
			滑らかさ		明らかな凹凸がないこと。														
			割れ		割れないこと。														
			ねじれ		著しいねじれがないこと。														
引張試験																			
荷重試験																			
負圧試験																			
耐薬品性試験																			
ピカット軟化温度試験																			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認		
ます設置工	管きよ材料 (下水道用鑄鉄製防護ふた)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 有害なきずが無く、外観がよいこと。	(1) 外観・形状検査は全数について行う。 (2) 寸法、荷重たわみ試験、耐荷重試験及び材質試験は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○		
			寸法	JSWAS G-3 による						
荷重たわみ試験										
耐荷重試験										
材質試験										
ます設置工	管きよ材料 (下水道用硬質塩化ビニル製ます)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。	(1) 外観・形状検査は全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、荷重試験、負圧試験、耐薬品性試験及びピカット軟化温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○		
			寸法	JSWAS K-7 による 防護ふたは JSWAS G-3、立上り部は JSWAS K-1 による					検査項目	判定基準
			引張試験						有害な傷	マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があつてはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)
			荷重試験						滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。
			負圧試験						割れ	割れないこと。
			耐薬品性試験						ねじれ	著しいねじれがないこと。
			ピカット軟化温度試験							

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
ます設置工	管きよ材料 (下水道用ポリプロピレン製ます)	必須	外観・形状	目視による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。		(1) 外観・形状検査は全数について行う。 (2) 寸法、引張試験、負圧試験、耐薬品性試験及び荷重たわみ温度試験は日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		○
			寸法	JSWAS K-8 による 防護ふたは JSWAS G-3 による	検査項目	判定基準			
			引張試験		有害な傷	マンホールの強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があってはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない)			
			荷重試験		滑らかさ	明らかな凹凸がないこと。			
			負圧試験		割れ	割れないこと。			
			耐薬品性試験		ねじれ	著しいねじれがないこと。			
			荷重たわみ温度試験						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認	
薬液注入工	材料	必須	ゲルタイム試験	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時		
			比重測定	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時		
			配合試験	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時		
	施工	必須	現場注入試験	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時	
			注入圧、注入量、注入時間測定	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	施工時適宜	
			検尺	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	監督員の指示による	全数	
			水質試験	「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」による	「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」による	「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」による	「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」による	「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」による	
管路土工	材料	必須	品質確認試験 (埋戻材料) コーン指数試験 設計C B R 試験 土の含水比試験 土の粒度試験	JIS A 1228 JIS A 1211 JIS A 1203 JIS A 1204	JIS A 1228 JIS A 1211 JIS A 1203 JIS A 1204	監督員の指示による	流用土の場合に適用する。	○	
道路土工	施工	必須	現場密度の測定	最大粒径 $\leq 53\text{mm}$: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B 法 最大粒径 $< 53\text{mm}$: 舗装試験法便覧による	路体 : 最大乾燥密度の90%以上 路床 : 最大乾燥密度の90%以上	500 m^2 に1箇所測定する。	リップ付硬質塩化ビニル管の場合に適用する。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
管防護工及び埋戻工	材料	その他	比重試験	JIS A 1202 に準じる (施工採取試料)	確認事項	150mに1箇所測定する。	リップ付硬質塩化ビニル管の場合に適用する。	○
				JIS A 1202 に準じる (施工前の試料)	確認事項	1 試料につき 1 回測定する。		○
			締固め試験	JIS A 1210 (E-b 法、B'-b 法)	確認事項	1 現場につき E-b 法、B'-b 法各 1 回測定する。		○
	施工	その他	現場密度の測定	舗装試験法便覧による	レベル 1 : 最大乾燥密度の 83%以上かつ平均 84%以上 レベル 2 : 最大乾燥密度の 88%以上かつ平均 89%以上	150mに1箇所測定する。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績書等による確認
立坑工	材料	必須	形状・寸法（土留材料）	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時		
			配合試験（注入材料）	監督員の指示による	監督員の指示による	施工前および材料変更時	ベントナイトモルタル（プレポーリング用、引抜き跡注入用）、裏込め注入用モルタルに適用する。	
			品質確認試験（埋戻材料） コーン指数試験 設計C B R試験 土の含水比試験 土の粒度試験	JIS A 1228 JIS A 1211 JIS A 1203 JIS A 1204	JIS A 1228 JIS A 1211 JIS A 1203 JIS A 1204	監督員の指示による	流用土の場合に適用する。	○
	施工	必須	底版コンクリート スランプ試験 空気量測定 コンクリートの圧縮強度	JIS A 1101 JIS A 1116,1118,1128 JIS A 1108	JIS A 1101 JIS A 1116,1118,1128 JIS A 1108	50m ³ につき1回行う		
			土の締固め試験	JIS A 1210	JIS A 1210	1立坑につき1回行う		
			検尺	監督員の指示による	監督員の指示による	全数		

第2章 処理場・ポンプ場については、日本下水道協会「下水道土木工事必携」に準拠するものとする。

第3章 機械電気設備工については、日本下水道事業団「機械設備工事必携」および「電気設備工事必携」に準拠するものとする。

IV. 写真管理基準

撮影箇所一覧表

出来形管理写真撮影箇所一覧表

品質管理写真撮影箇所一覧表

施工状況写真撮影箇所一覧表

IV. 写真管理基準

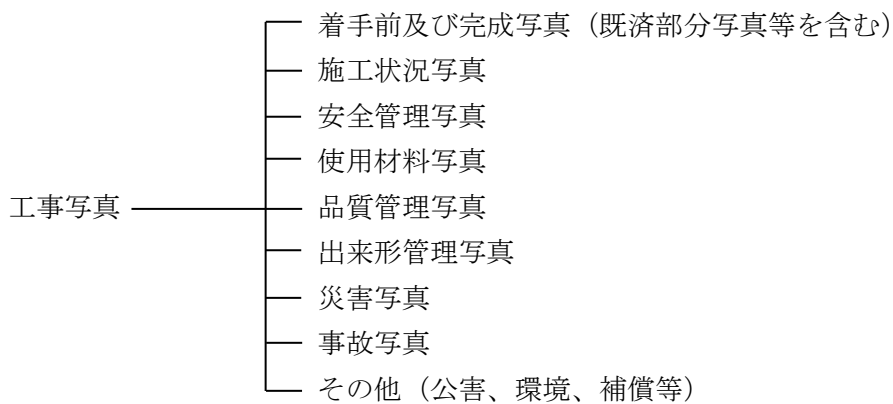
1. 適用範囲

この写真管理基準は、下水道土木工事施工管理基準7の(1)に定める土木工事の工事写真による管理（デジタルカメラを使用した撮影～提出）に適用する。

また、写真を映像と読み替えることも可とする。

2. 工事写真の分類

工事写真は以下のように分類する。



3. 工事写真の撮影基準

工事写真の撮影は以下の要領で行う。

(1) 撮影頻度

工事写真の撮影頻度は、別紙撮影箇所一覧表に示すものとする。

(2) 撮影方法

写真撮影にあたっては、次の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点（位置）
- ④ 設計方法
- ⑤ 実測方法
- ⑥ 略図

なお、小黒板の判読が困難となる場合は、「デジタル写真管理情報基準」に規定する写真情報（写真管理項目-施工管理値）に必要事項を記入し、整理する。

特殊な場合で監督職員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

(3) 情報化施工及び3次元データによる施工管理

「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS（ノンプリズム方式）」

を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「施工履歴データを用いた出来形管理要領（路面切削工編）（案）」、「施工履歴データを用いた出来形管理要領（表層安定処理等・中層地盤改良工事編）（案）」、「施工履歴データを用いた出来形計測要領（固結工（スラリー攪拌工）編）（案）」、「3次元計測技術を用いた出来形計測要領（案）」による出来形管理を行った場合には、出来形管理写真の撮影頻度及び撮影方法は、写真管理基準のほか、同要領の規定による。

また、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による品質管理を行った場合には、品質管理写真の撮影頻度及び撮影方法は、写真管理基準のほか、同要領の規定による。

4. 写真の省略

工事写真は次の場合に省略するものとする。

- (1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
- (2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を細別ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
- (3) 監督職員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。臨場時の状況写真は不要。

5. 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、『デジタル工事写真の小黑板情報電子化について』（令和5年3月1日付け、国技建管第14号）に基づく小黑板情報の電子的記入は、これに当たらない。

6. 撮影の仕様

写真の色彩やサイズは以下のとおりとする。

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 有効画素数は小黑板の文字が判読できることを指標とする。
(100万画素程度～300万画素程度 = 1,200×900程度～2,000×1,500程度)
映像と読み替える場合は、以下も追加する。
- (3) 夜間など通常のカメラによる撮影が困難な場合は、赤外線カメラを用いる等確認可能な方法で撮影する。
- (4) フレームレートは、実速度で撮影する場合は30fps程度を基本とする。高倍速での視聴を目的とする場合は、監督職員と協議の上、撮影時に必要な間隔でタイムラプス映像を撮影することができる。

7. 撮影の留意事項

撮影箇所一覧表の適用について、以下を留意するものとする。

- (1) 「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。
- (2) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。
- (3) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図（撮影位置図、平面図、凡例図、構造図など）を参考図として作成する。
- (4) 撮影箇所一覧表に記載のない工種については、監督職員と写真管理項目を協議の上、取り扱いを定めるものとする。

8. 整理提出

撮影箇所一覧表の「撮影頻度」に基づいて撮影した写真原本を電子媒体に格納し、監督職員に提出するものとする。

写真ファイルの整理及び電子媒体への格納方法（各種仕様）は「デジタル写真管理情報基準」（令和5年3月 国土交通省）に基づくものとする。

9. その他

撮影箇所一覧表の用語の定義

- (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所での使用が確認できる箇所をいう。
- (2) 適宜とは、設計図書の様子が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (3) 不要とは、工事写真帳として貼付整理し提出する必要がないことをいう。

撮影箇所一覧表

区分	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
着手前・完成	着手前	全景又は代表部分写真	着手前1回 〔着手前〕	着手前 1枚	
	完成	全景又は代表部分写真	施工完了後1回 〔完成後〕	施工完了後 1枚	
施工状況写真	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月1回〔月末〕	不要	
		施工中の写真	工種、種別ごとに共通仕様書及び諸基準に従い施工していることが確認できるように適宜 〔施工中〕	適宜	
			高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認できるように適宜 〔施工中〕	不要	高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付
	仮設（指定仮設）	使用材料、仮設状況、形状寸法	1 施工箇所に1回 〔施工前後〕	代表箇所 1枚	
	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	必要に応じて 〔発生時〕	不要	工事打合簿に添付する。
別添 施工状況写真撮影箇所一覧表に記載 (工種、種別ごとに土木工事共通仕様書、下水道工事共通仕様書および諸基準に従い施工していることが確認できるもの)					
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	種類ごとに1回 〔設置後〕	全景1枚	
		各種保安施設の設置状況	種類ごとに1回 〔設置後〕		
		監視員交通整理状況	各1回 〔作業中〕		
		安全訓練等の実施状況	実施ごとに1回 〔実施中〕	不要	実施状況資料に添付する。
使用材料	使用材料	形状寸法	品目ごとに1回 〔使用前〕	不要	品質証明に添付する。
		検査実施状況	品目ごとに1回 〔検査時〕		

区分	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
品質管理写真	別添 品質管理写真撮影箇所一覧表に記載				
出来形管理写真	別添 出来形写真撮影箇所一覧表に記載				
災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	その都度 〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	適宜	
事故	事故報告	事故の状況	その都度 〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	適宜	発生前は付近の写真でも可
その他	補償関係	被害又は損傷状況等	その都度 〔発生前〕 〔発直後〕 〔発後〕	適宜	
	環境対策イメージアップ等	各施設設置状況	各種1回 〔設置後〕	適宜	

第2章 処理場・ポンプ場については、日本下水道協会「下水道土木工事必携」に準拠するものとする。

第3章 機械電気設備工については、日本下水道事業団「機械設備工事必携」および「電気設備工事必携」に準拠するものとする。

出来形管理写真撮影箇所一覧表

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	3 管きよ工 (開削)	3 管路土工	1	管路掘削	掘削状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					深さ	マンホール間ごとに1回 〔掘削後〕		
					幅			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	3 管路土工	2	管路埋戻	埋戻状況	マンホール間ごとに1回 〔布設後〕	代表箇所 各1枚	
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	1	管布設 (自然流下 管)	布設状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					中心線の変位 (水平)	マンホール間ごとに1回 〔布設後〕		
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	2	矩形きよ (プレキャスト)	布設状況	施工延長 20m につき 1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					中心線の変位 (水平)	施工延長 20m につき 1回 〔布設後〕		
1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工	3	圧送管	布設状況	施工延長 40m につき 1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					中心線の変位 (水平)	施工延長 40m につき 1回 〔布設後〕		
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	1	砂基礎	施工状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					幅	マンホール間ごとに1回 〔施工後〕		
					厚さ			

出来形管理写真撮影箇所一覧表

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工		砂防護	施工状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					厚さ	1 スパンごとに1回 〔施工後〕		
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	2	砕石基礎	施工状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					幅	マンホール間ごとに1回 〔施工後〕		
					厚さ			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工		砕石防護	施工状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					厚さ	1 スパンごとに1回 〔施工後〕		
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	3	コンクリート基礎	施工状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					幅	マンホール間ごとに1回 〔施工後〕		
					厚さ			
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	4	まくら土台基礎	設置状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
1 管路	3 管きよ工 (開削)	5 管基礎工	5	はしご胴木基礎	設置状況	マンホール間ごとに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					幅	マンホール間ごとに1回 〔設置後〕		
					厚さ			

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要		
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度			
1 管路	3 管きよ工（開削）	6 水路築造工		現場打水路	施工状況	施工延長 20m につき 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚			
					中心線の変位 （水平）				施工延長 20m につき 1 回 〔施工後〕	
					幅					
					高さ					
	厚さ									
1 管路	3 管きよ工（開削）	7 管路土留工	1	鋼矢板土留	打設状況	施工延長 20m につき 1 回 〔打込中〕	代表箇所 各 1 枚	任意仮設は除く。		
					根入長				施工延長 20m につき 1 回 〔打込前後〕	
					変位					施工延長 20m につき 1 回 〔打込後〕
					数量					
1 管路	3 管きよ工（開削）	7 管路土留工	2	土留・仮締切工	根入長	1 スパンごとに 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	任意仮設は除く。		
1 管路	4.5 管きよ工（小口径推進・推進）	3 推進工		推進工	各種設備設置撤去状況 （推進設備、掘進機、抗口、泥水処理設備等）	1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚			
					推進状況（掘削、送排泥、裏込注入等）				1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	
					中心線の変位 （水平）				1 施工箇所に 1 回 〔推進後〕	
1 管路	4.5 管きよ工（小口径推進・推進）	4 立坑内管布設工		空伏工	施工状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚			
					幅				1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	
					高さ					
					中心のずれ					

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	3 一次覆工		掘進工	各種設備設置撤去状況 (シールド機、支圧壁、抗口、軌条設備等)	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					セグメント組立状況	施工延長 40m につき1回 〔施工中〕		
					推進状況(掘削、送排泥、裏込注入等)	施工延長 40m につき1回 〔掘進中〕		
					中心線の変位(水平)	施工延長 40m につき1回 〔掘進後〕		
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	4 二次覆工	1	二次覆工	各種設備設置撤去状況	施工延長 40m につき1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					覆工状況	施工延長 40m につき1回 〔施工中〕		
					中心線の変位(水平)	施工延長 40m につき1回 〔覆工後〕		
					二次覆工厚			
					仕上がり内径			
1 管路	6 管きよ工 (シールド)	4 二次覆工	2	二次覆工 (強化プラスチック複合管)	基準高	設計測点ごとに1回 〔覆工後〕	代表箇所 各1枚	
					二次覆工厚	FRPM管5本ごとに1回 〔据付完了後〕		
					たわみ率 継手隙間	施工延長 500m ごとに1回 〔覆工後〕		
1 管路	7 マンホール工	3 現場打ちマンホール工	1	現場打ちマンホール工	外観、形状寸法	打設区分ごとに1回 〔脱型後〕	代表箇所 各1枚	
					足掛け金物	マンホールごとに1回 〔施工後〕		
					インパートの外観、形状	全数 〔施工後〕		
					マンホールふた、調整工			
					据付状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕		
					幅(内法)	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					壁厚			

出来形管理写真撮影箇所一覧表

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度		
1 管路	7 マンホール工	3 現場打ちマンホール工	2	マンホール基礎工	施工状況	1 施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					床堀深				1 施工箇所 に1回 〔施工後〕
					基礎工幅				
					基礎工高				
					コンクリート 工幅				
					コンクリート 工高				
1 管路	7 マンホール工	4 組立マンホール工		組立マンホール工	据付状況	1 施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					インパートの 外観、形状				1 施工箇所 に1回 〔施工後〕
					マンホールふ た、調整工				
1 管路	7 マンホール工	5 小型マンホール工		小型マンホール工	据付状況	1 施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					インパートの 外観、形状				1 施工箇所 に1回 〔施工後〕
					マンホールふ た、調整工				
1 管路	7 マンホール工	4・5 組立・小型マンホール工		組立・小型マンホール基礎工	施工状況	1 施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					床堀深				1 施工箇所 に1回 〔施工後〕
					敷モルタル幅				
					敷モルタル高				

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	8 特殊マンホール工	4 躯体工		現場打ち特殊人孔	外観、形状寸法	打設区分ごとに1回 〔脱型後〕	代表箇所 各1枚	
					足掛け金物	マンホールごとに1回 〔施工後〕		
					インパートの外観、形状	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					マンホールふた、調整工			
					施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕		
					幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					高さ			
壁厚								
1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し室・雨水吐室工		伏せ越し室・雨水吐室	外観、形状寸法	打設区分ごとに1回 〔脱型後〕	代表箇所 各1枚	
					足掛け金物	マンホールごとに1回 〔施工後〕		
					インパートの外観、形状	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					マンホールふた、調整工			
					施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕		
					幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					高さ			
壁厚								
1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し管工		伏せ越し管	布設状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					基準高	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 管路	8 特殊マンホール工	越流堰（雨水吐室）		越流堰（雨水吐室）	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					基準高	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					幅（厚さ）			
					高さ（深さ）			
					延長（長さ）			

出来形管理写真撮影箇所一覧表

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	8 特殊マンホール工			中継ポンプ 施設	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					幅、長さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					深さ			
					壁厚			
1 管路	9 取付管及びます工	4 ます設置工		公共ます	設置状況	1 施工箇所に1回 〔設置中〕	代表箇所 各1枚	
					ます深	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 管路	9 取付管及びます工	5 取付管布設工		取付管	布設状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					延長	1 施工箇所に1回 〔施工後〕		
					掘削幅			
					砂基礎厚			
					砂防護厚			
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	1	舗装復旧工 (下層路盤工)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	下水道工事の 仮復旧に適用 する。
					厚さ	1 スパンごとに1回 〔施工後〕		
					幅			
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	2	舗装復旧工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	下水道工事の 仮復旧に適用 する。
					厚さ	1 スパンごとに1回 〔施工後〕		
					幅			
1 管路	10 付帯工	5 舗装復旧工	3	舗装復旧工 (表層工)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	下水道工事の 仮復旧に適用 する。
					厚さ	1 スパンごとに1回 〔施工後〕		
					幅			
1 管路	10 付帯工	7 道路付属物復旧工			施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	

章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	11 立坑工	4 土留工	1	立坑工 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (H鋼杭)	施工状況 (立坑設置状況、立坑基礎設置状況)	1 施工箇所にて1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					基準高	1 施工箇所にて1回 〔設置後〕		
					寸法			
					深さ			
1 管路	11 立坑工	4 土留工	2	立坑土工	施工状況	1 施工箇所にて1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					砕石基礎幅	1 施工箇所にて1回 〔設置後〕		
					砕石基礎厚			
					基準高			
					底版コンクリート幅			
					底版コンクリート厚			
					巻出厚	立坑ごとに1回 〔施工後〕		
1 管路	11 立坑工	4 土留工	3	矢板工	施工状況	1 施工箇所にて1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					根入長	立坑ごとに1回 〔施工後〕		
1 管路	11 立坑工	4 土留工	4	支保工	施工状況	1 施工箇所にて1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
					基準高	立坑ごとに1回 〔施工後〕		
					部材長			

章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度		
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	1	立坑工 (ライナー プレート式 土留工)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					基準高				全数 〔施工後〕
					寸法				
					深さ				
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	2	立坑土工	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					砕石基礎幅				1 施工箇所に1回 〔施工後〕
					砕石基礎厚				
					基準高				
					底版コンクリ ート幅				
					底版コンクリ ート厚				
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工		立坑土工 (土工・埋 戻)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					巻出厚				立坑ごとに1回 〔施工後〕
1 管路	11 立坑工	5 ライナープレート式 土留工及び土工	3	支保工 (補強リン グ含む)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					基準高				立坑ごとに1回 〔施工後〕
					部材長				
1 管路	11 立坑工	6 鋼製ケーシング式 土留工及び土工	1	立坑工 (鋼製ケー シング式土 留工)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					基準高				全数 〔施工後〕
					寸法				
					深さ				

出来形管理写真撮影箇所一覧表

章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
					撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 管路	11 立坑工	6 鋼製ケーシング式 土留工及び び土工	2	立坑土工 (底版コン クリート)	施工状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
					基準高	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
					底版コンクリ ート幅			
					底版コンクリ ート厚			
1 管路	11 立坑工	6 鋼製ケーシング式 土留工及び び土工		立坑土工 (土工・埋 戻)	施工状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
					巻出厚	立坑ごとに 1 回 〔施工後〕		

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用鉄筋コンクリート管）	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-1
2	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用硬質塩化ビニル管）	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-1
3	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用リップ付硬質塩化ビニル管）	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-13
4	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用強化プラスチック複合管）	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-2
5	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用ポリエチレン管）	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-14
6	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用レジンコンクリート管）	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-11
7	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用ボックスカルバート）	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-12 JSWAS A-13
8	管布設工（開削） 管きょ材料 （下水道用ダクタイル鋳鉄管）	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS G-1
9	管布設工（開削） 管きょ材料 （鋼管）	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	日本下水道協会下水道用資器材 I 類 JIS G 3443 JIS G 3451
10	管推進工 小口径推進工 管きょ材料 （下水道推進工法用鉄筋コンクリート管）	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-2 JSWAS A-6

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
11	管推進工 小口径推進工 管きょ材料 (下水道推進工法 用ダクタイル鋳鉄 管)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS G-2
12	推進工 小口径推進工 管きょ材料 (鋼管)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	日本下水道協 会下水道用資 器材I類 JIS G 3444
13	小口径推進工 (推進工法用硬質 塩化ビニル管)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-6
14	管推進工 (推進工法用ガラ ス繊維鉄筋コンク リート管)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-8
15	管推進工 小口径推進工 (添加剤等)	配合試験	試験ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	滑材、添加 材、中込め充 填材に適用す る。
16	管推進工 小口径推進工 (材料検収)	搬入時および空袋検収時	全数 〔施工前後〕	不要	
17	管推進工 小口径推進工 (発生土処理)	コーン指数試験 一軸圧縮強度試験	適宜 〔試験実施時〕	不要	
18	シールド工 管きょ材料 (シールド工用 標準コンクリート 系セグメント)	外観検査 (下水道協会規格外の場 合) 形状・寸法検査 水平仮組検査 性能検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-4
19	シールド工 管きょ材料 (シールド工用 標準鋼製セグメン ト)	外観検査 (下水道協会規格外の場 合) 材料検査 形状・寸法検査 溶接検査 水平仮組検査 性能検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-3

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
20	シールド工 管きよ材料 (強化プラスチック複合管)	外観検査 ・下水道協会規格外の場 合形状・寸法検査 外圧試験 耐薬品性試験 耐酸試験 水密試験	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-16
21	一次覆工 (添加材等)	配合試験	試験ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	添加材、裏込 材に適用す る。
22	一次覆工 (材料検収)	搬入時および空袋検収時	全数 〔施工前後〕	不要	
23	一次覆工 (発生土処理)	コーン指数試験 一軸圧縮強度試験	適宜 〔試験実施時〕	不要	
24	二次覆工 (中込材)	一軸圧縮強度 生比重 フロー値	測定ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	
25	マンホール設置工 管きよ材料 (組立マンホール 側塊)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	日本下水道協 会下水道用資 器材II類 JIS A 5372
26	マンホール設置工 管きよ材料 (下水道用鋳鉄製 マンホールふた)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	マンホールふ た性能規定書 JSWAS G-4
27	マンホール設置工 管きよ材料 (マンホール足掛 け金物)	外観検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	
28	マンホール設置工 (鉄筋コンクリー ト製小型組立マン ホール)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS A-10
29	マンホール設置工 管きよ材料 (下水道用塩化ビ ニル製小型マンホ ール)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-9

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
30	マンホール設置工 (レジンコンクリート製マンホール)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-10
31	マンホール設置工 (硬質塩化ビニル製リブ付小型マンホール)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-17
32	ます設置工 管きょ材料 (下水道用鋳鉄製防護ふた)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS G-3
33	ます設置工 管きょ材料 (下水道用硬質塩化ビニル製ます)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-7
34	ます設置工 管きょ材料 (下水道用ポリプロピレン製ます)	外観・形状検査	検査ごとに1回 〔検査実施中〕	不要	JSWAS K-8
35	薬液注入工 (材料検収)	搬入時および空袋検収時	全数 〔施工前後〕	不要	
36	薬液注入工 (ゲルタイム)	ゲルタイム測定	施工箇所ごとに1回 〔施工前〕	不要	
37	薬液注入工	注入圧、注入時間、単位吐出量測定	施工箇所ごとに1回 〔施工中〕	不要	
38	薬液注入工 (マーキング)	マーキング箇所確認	施工箇所ごとに1回 〔施工前〕	不要	
39	薬液注入工 (検尺)	検尺状況	施工箇所ごとに1回 〔施工後〕	不要	
40	薬液注入工 (現場注入試験)	現場注入試験状況	施工箇所ごとに1回 〔試験実施中〕	不要	

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
41	薬液注入工 (水質試験)	水質試験状況	施工箇所ごとに1回 〔試験実施中〕	不要	
42	管路土工	品質確認試験状況 コーン指数試験 設計CBR試験 土の含水比試験 土の粒度試験	施工箇所ごとに1回 〔試験実施時〕	不要	流用土の場合
43	管路土留工 (土留材料)	形状・寸法	種別ごとに1回 〔施工前〕	不要	
44	立坑工 (土留材料)	形状・寸法	1立坑ごとに1回 〔施工前〕	不要	
45	立坑工 (注入材料)	配合試験	1立坑ごとに1回 〔試験実施時〕	不要	ベントナイト モルタル(プレボーリング 用、引抜き跡 注入用)、裏 込め注入用モ ルタル
46	立坑土工 (底版コンクリート)	スランプ試験 空気量測定 コンクリートの圧縮強度 試験	50m ³ に1回 〔試験実施時〕	不要	
47	立坑土工 (土工・埋戻)	品質確認試験状況 コーン指数試験 設計CBR試験 土の含水比試験 土の粒度試験	1立坑ごとに1回 〔試験実施時〕	不要	流用土の場合
48	立坑土工 (土工・埋戻)	土の締固め試験	1立坑ごとに1回 〔試験実施時〕	不要	

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1	管路土工 (管路掘削)	掘削状況 基面整正状況 掘削機械・機種	1 スパンごとに1回		
2	管路土工 (管路埋戻)	埋戻状況 転圧状況 埋戻機械・機種 転圧機械・機種	1 スパンごとに1回		
3	管路土工 (発生土処理)	搬出状況	搬出時に1回		
		運搬経路 処分状況	処分地ごとに1回		
4	管布設工 (自然流下管)	布設状況 滑材の塗布 ゴム輪接合 挿入 芯出し せん孔 支管の接合 マンホールとの接合	1 スパンごとに1回		
5	管布設工 (プレキャスト)	布設状況 芯出し 緊結状況 マンホールとの接合	1 スパンごとに1回		
6	管布設工 (圧送管)	布設状況 接合状況	施工延長 40mごとに1回		

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
7	管基礎工 (砂防護・砂基礎)	転圧状況 転圧機械・機種	1 スパンごとに1回		
8	管基礎工 (碎石防護・碎石基礎)	転圧状況 転圧機械・機種	1 スパンごとに1回		
9	管路土留工 (H鋼杭) (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (木矢板)	設置・撤去状況	1 スパンごとに1回		任意仮設は除く
10	管路土留工 (支保工)	切梁・腹起し設置状況	1 スパンごとに1回		任意仮設は除く
11	小口径推進工 (掘進機)	外観・形状寸法	機種ごとに1回		
12	小口径推進工 (管推進工)	管据付状況	管1本ごとに1回		
		油圧ジャッキ押し込み状況 掘進機及び推進設備運転操作状況 土質及び残土搬出状況	1 スパンごとに1回		

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
13	小口径推進工 (仮設備) (泥水処理設備)	各種設備設置撤去状況 推進設備 掘進機 坑口 支圧壁 泥水処理設備 等	設置撤去ごとに1回		
14	小口径推進工 (発生土処理)	搬出状況	搬出時に1回		
		運搬経路 処分状況	処分地ごとに1回		
15	小口径推進工 (空伏せ)	管布設状況 鉄筋組立状況 鉄筋組立状況 コンクリート打設状況	全数		
16	推進工 (掘進機)	外観・形状寸法	機種ごとに1回		
17	推進工 (管推進工)	管据付状況	管1本ごとに1回		
		ストラット入替状況 油圧ジャッキ押し込み状 況掘進機及び推進設備運 転操作状況 裏込め注入状 況目地施工状況 土質及び残土搬出状況	1スパンごとに1回		
18	推進工 (仮設備) (泥水処理設備)	各種設備設置撤去状況 推進設備 掘進機 坑口 支圧壁 泥水処理設 備 等	設置撤去ごとに1回		

施工状況写真撮影箇所一覧表

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
19	推進工 (発生土処理)	搬出状況	搬出時に1回		
		運搬経路処分状況	処分地ごとに1回		
20	推進工 (空伏せ)	管布設状況 鉄筋組立状況 鉄筋組立状況 コンクリート打設状況	全数		
21	一次覆工 (シールド機)	外観・形状寸法	機種ごとに1回		
22	一次覆工 (覆工セグメント)	掘削状況 セグメント組立状況 シールド機及び設備運転 操作状況 裏込め注入状況 土質及び残土搬出状況			
23	一次覆工 (坑内設備) (立坑設備) (泥水処理設備)	各種設備設置撤去状況 シールド機 門型クレーン プラント類 坑口 支圧壁 軌条設備 泥水処理設備 等			
24	二次覆工 (覆工コンクリート)	スチールフォーム組立状 況コンクリート打設状況 坑内清掃状況			

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
25	二次覆工 (仮設備)	各種設備設置撤去状況 スチールフォーム プラント類 等			
26	一次覆工 (発生土処理)	搬出状況	搬出時に1回		
27	標準マンホール工	運搬経路 処分状況	処分地ごとに1回		
		鉄筋組立状況 型枠組立状況	打設区分ごとに1回		
28	標準マンホール基礎工	コンクリート打設状況 側塊据付状況 足掛け金物設置状況	マンホールごとに1回		
		基礎コンクリート設置状況	マンホールごとに1回		
29	組立マンホール工	据付状況 シーラ材施工 状況	マンホールごとに1回		
30	小型マンホール工	据付状況 シーラ材施工状況	マンホールごとに1回		

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
31	組立・小型マンホール基礎工	敷モルタル設置状況	マンホールごとに1回		
32	特殊マンホール工 (躯体工)	鉄筋組立状況 型枠組立状況	打設区分ごとに1回		
		コンクリート打設状況 側塊据付状況 足掛け金物設置状況	マンホールごとに1回		
33	特殊マンホール工 (伏せ越し室・雨水吐室工)	鉄筋組立状況 型枠組立状況	打設区分ごとに1回		
		コンクリート打設状況 側塊据付状況 足掛け金物設置状況	マンホールごとに1回		
34	取付管及びます工 (ます設置工)	設置状況	全数		
35	取付管及びます工 (取付管布設工)	布設状況	全数		
36	舗装復旧工 (上層路盤工) (下層路盤工)	敷均し・転圧状況	施工延長 400mごとに1回		下水道工事の 仮復旧に適用 する。

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
37	舗装復旧工 (表層工)	舗設状況 タックコート・プライム コート散布状況	施工延長 400mごとに 1 回		
38	立坑工 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (H鋼杭)	設置・撤去状況 施工機械・機種	立坑ごとに 1 回		
39	立坑工 (ライナープレート 式土留工)	設置・撤去状況 施工機械・機種	立坑ごとに 1 回		
40	立坑工 (鋼製ケーシング 式土留工)	設置状況 施工機械・機種	立坑ごとに 1 回		
41	立坑工 (支保工)	設置・撤去状況	立坑ごとに 1 回		
42	立坑土工	掘削状況 掘削機械・機種 底版コンクリート打設状 況埋戻状況	立坑ごとに 1 回		

施工状況写真撮影箇所一覧表

番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
43	仮設工 (覆工)	設置・撤去状況	全数		
44	仮設工 (仮締切工)	設置前施工中 取除後	全数		
45	仮設工 (防護工)	設置前施工中 取除後	全数		吊り防護、受け防護

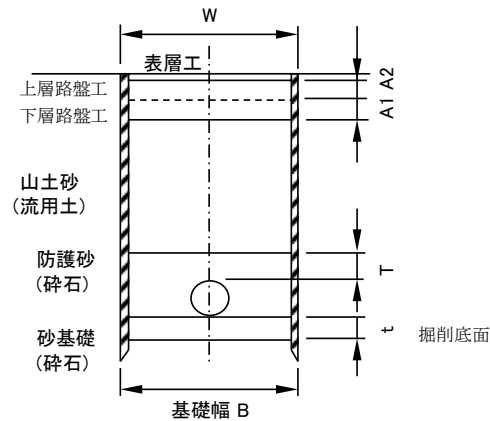
V. 出来形成果表

硬質塩化ビニル管布設日常管理表②				工事名				代理人		主任	
No. ~ No.				作成者		印		No.			
+30mm +20mm +10mm ±0mm -10mm -20mm -30mm	No. 人孔										
差											
実測管底高											
計画管底高											
測点											

リブ付硬質塩化ビニル管布設日常管理表②				工事名				代理人				主任											
No.		~ No.		作成者				No.															
+30mm +20mm +10mm ±0mm -10mm -20mm -30mm	No.1人孔		(1)	CL	1	CL	2	CL	3	CL	4	CL	5	CL	6	CL	7	CL	8	CL	9	No.2人孔	
差																							
実測管底高																							
計画管底高																							
測点																							

※上記測点における実測管底高、計画管底高の値は「管理表その1(②1層目埋戻転圧後)」の値を記入する。

開削土工出来形成果表①			工事名								
令和 年 月 日	請負人		測定者	印	作成者	印					

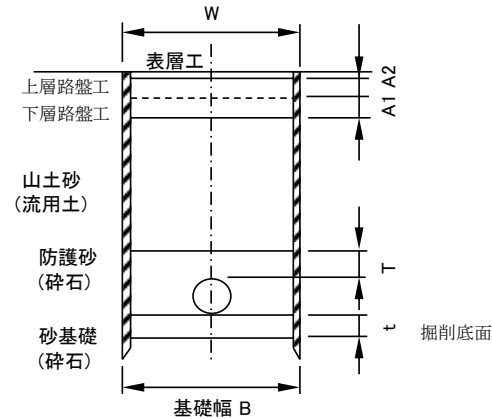


※ () 規格値

測 点	掘削底面高 (±30)			掘削幅 W (±50)			基礎厚 t (-30)			基礎幅 B (-50)			管防護厚 T (-30)									
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						

開削土工出来形成果表②

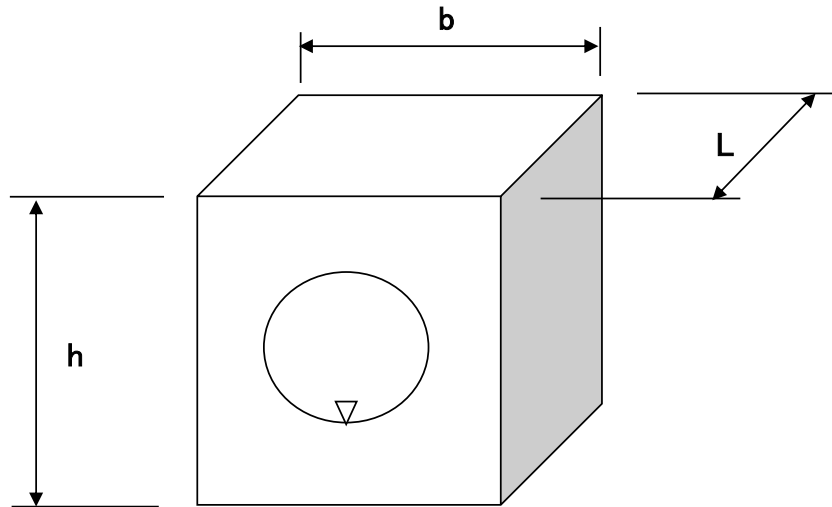
令和 年 月 日			請負人	工事名		
測定者			印	作成者	印	



※ () 規格値

測 点	下層路盤幅 (-50)			下層路盤厚 (-45)			上層路盤幅 (-50)			上層路盤厚 (-25)			表層厚 (-7)			表層幅 (-25)						
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						
~																						

空伏工出来形成果表				工事名		
令和 年 月 日	請負人		測定者	印	作成者	印



※()規格値

測定箇所		基準高▽(±50)			幅b(-30)			高さh(-30)			中心のずれ(±50)			延長(-50)			勾配(±20%)			備考
測点	位置	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
No.	上流側																			
	下流側																			
No.	上流側																			
	下流側																			
No.	上流側																			
	下流側																			
No.	上流側																			
	下流側																			

管きよ及びマンホール出来形成果表

区 間	延 長			マンホール 番 号	地 盤 高		管 底 高 (基 準 高)				マンホール深		備 考
	設計	m	差		m	差	流入側	差	流出側	差		差	
	実測	m	±200		m	±30mm	m	±30mm (±50mm)	m	±30mm (±50mm)	m	-	
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												
	設計												
	実測												

()内は推進工に適用する。

現場打ちマンホール出来形成果表(第 号マンホール)	工事名	
----------------------------------	------------	--

令和 年 月 日	請負人	測定者	印	作成者	印
----------	-----	-----	---	-----	---

※() 規格値

人 孔 番 号	人孔天端基準高▽注1			管底基準高▽(±30)			幅b(内法)(-30)			壁厚t(-20)			基礎基準高▽(±30)			床掘深H(±30)			基礎工幅B(-50)			基礎工高h(-30)			調整工 測定値
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実施値	差	設計値	実施値	差	設計値	実測値	差	設計値	実施値	差	設計値	実施値	差	設計値	実施値	差	

注1: 当該管布設工法の基準高の規格値による。

鋼矢板立坑出来形成果表①

工事名

令和 年 月 日

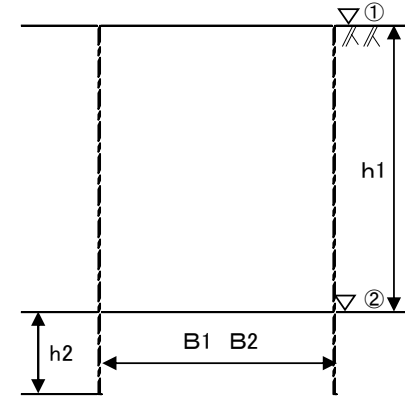
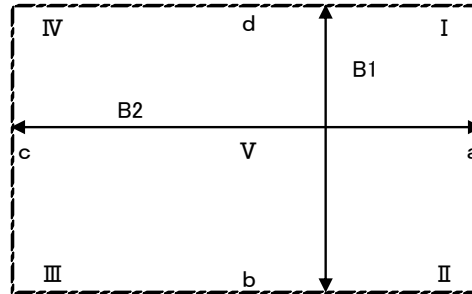
請負人

測定者

印

作成者

印



※() 規格値
 ※掘削深は、4隅と中央の平均
 ※根入長さは、1辺に1回

測点	地盤高 ①			掘削底面基準高②(±30)			掘削深 h1 (±30)			掘削幅 B1(±100)			掘削幅 B2(±100)			根入長 h2(-50)						
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
I																						
II																						
III																						
IV																						
V																						
I ~ V 平均																						
B1																						
B2																						
a																						
b																						
c																						
d																						

鋼矢板立坑出来形成果表②

工事名

令和 年 月 日

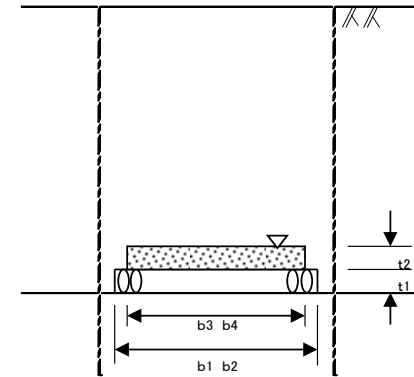
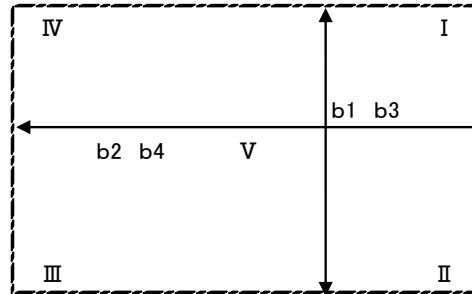
請負人

測定者

印

作成者

印



※() 規格値

※底版コンクリート天端高は、4隅と中央の平均

測点	碎石基礎幅 b1(-50)			碎石基礎幅 b2(-50)			碎石基礎厚 t1(-30)			底版コンクリート天端高 (±30)			底版コンクリート幅 b3(-30)			底版コンクリート幅 b4(-30)			底版コンクリート厚 t2(-10)			
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
b1																						
b2																						
t1																						
I																						
II																						
III																						
IV																						
V																						
I ~ V 平均																						
b3																						
b4																						
t2																						

ライナプレート式立坑出来形成果表①

工事名

令和 年 月 日

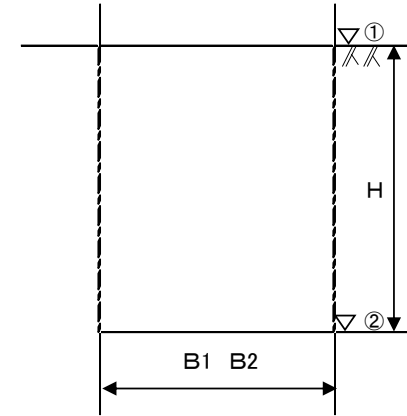
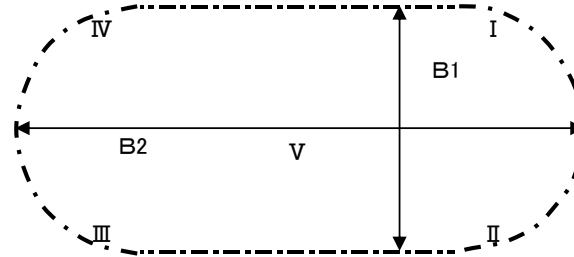
請負人

測定者

印

作成者

印



※() 規格値

※掘削深は、4隅と中央の平均

測点	地盤高 ①			掘削底面基準高 ②			掘削深 H (±30)①-②			掘削幅 B1 (±100)			掘削幅 B2 (±100)									
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
I																						
II																						
III																						
IV																						
V																						
I ~ V 平均																						
B1																						
B2																						

ライナプレート式立坑出来形成果表②

工事名

令和 年 月 日

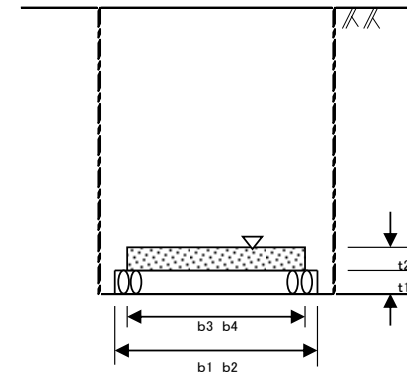
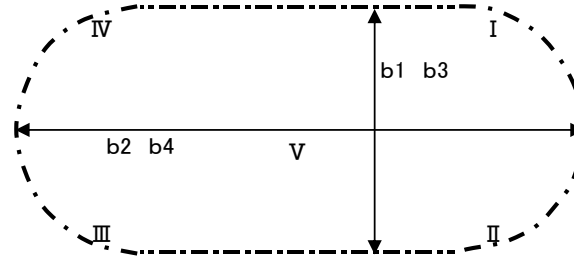
請負人

測定者

印

作成者

印



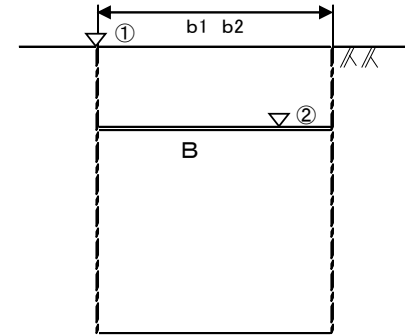
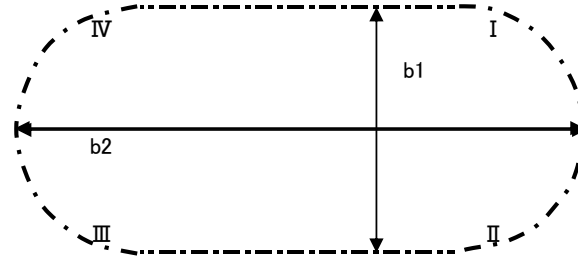
※() 規格値

※底版コンクリート天端は4隅と中央の平均

測点	碎石基礎幅 b1(-50)			碎石基礎幅 b2(-50)			碎石基礎厚 t1(-30)			底版コンクリート天端(±10)			底版コンクリート幅 b3(-30)			底版コンクリート幅 b4(-30)			底版コンクリート厚 t2(-10)			
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
b1																						
b2																						
t1																						
I																						
II																						
III																						
IV																						
V																						
I ~ V 平均																						
b3																						
b4																						
t2																						

ライナープレート式立坑出来形成果表③

令和 年 月 日	請負人	工事名	測定者	印	作成者	印
----------	-----	-----	-----	---	-----	---



※() 規格値

※ライナープレート天端は4隅の平均

※支保高は、ブラケット高さ4点以上測定し支点位置算出、各部材長さは実測する。

測点	ライナープレート天端①(±50)			ライナープレート幅b1(±100)			ライナープレート幅b2(±100)			支保高②(±100)			土留工部材長B(±100)									
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	
I																						
II																						
III																						
IV																						
I~IV平均																						
b1																						
b2																						
B																						

VI. 施工管理資料

工事材料品質証明書類一覧			
硬質塩化ビニル管（リブ付硬質塩化ビニル管含む）			
1	構造図		
2	管製品試験成績表(引張・偏平・負圧・耐薬品製・ピカット軟化温度)試験		
3	継手ゴム試験成績表(かたさ・引張試験・伸び・永久伸び・ 圧縮永久歪・老化試験)		JIS K6251,6253 適合
4	その他		
鉄筋コンクリート管			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	骨材のふるい分け試験 JIS A1102		
3	単位容積重量試験 JIS A1104		
4	比重・吸水率試験 JIS A1110		
5	骨材のすりへり試験 JIS A1121		
6	その他		
レディーミクストコンクリート			
1	日本工業規格表示許可証の写し		
2	レディーミクストコンクリート配合報告書		
3	レディーミクストコンクリート配合設計計算書		
4	セメント試験成績表		
5	骨材試験成績表		
6	その他		
砂			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	粒度試験 JIS A1102		
3	洗い試験 JIS A1103		
4	単位容積重量試験 JIS A1104		
5	有機不純物試験 JIS A1105		
6	比重・吸水率試験 JIS A1109		
7	その他		
山砂・細砂・粗砂・再生コンクリート砂			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	土粒子の比重試験 JIS A1102		
3	土の含水量試験 JIS A1103		
4	土の粒度試験 JIS A1204		
5	液性限界・塑性限界試験 JIS A1205		
6	土の締め固め試験 JIS A1210		突固めによる室内試験
7	CBR試験(乱した土) JIS A1211		室内試験
8	土の透水試験(変水位) JIS A1218		必要に応じて
9	その他		

山土砂			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	単位容積重量試験 JIS A1104		
3	土粒子の比重試験 JIS A1102		
4	液性限界・塑性限界試験 JIS A1205		
5	土の締め固め試験 JIS A1210		
6	路床土CBR試験 JIS A1211		
7	土の粒度試験 JIS A1204		
8	土の含水比試験 JIS A1203		
流用土			
1	締め固めた土のコーン指数試験 JIS A1228		
2	設計CBR試験 JIS A1211		
3	その他		
栗石（割栗石）			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	骨材のふるい分け試験 JIS A1102		
3	単位容積重量試験 JIS A1104		
4	比重・吸水率試験 JIS A1110		
5	骨材のすりへり試験 JIS A1121		
6	その他		
路盤材及び基礎砕石（C-30、C-40、RC-30、RC-40、M-30）			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	骨材のふるい分け試験 JIS A1102		
3	単位容積重量試験 JIS A1104		
4	比重・吸水率試験 JIS A1110		
5	骨材のすりへり試験 JIS A1121		
6	液性限界・塑性限界試験 JIS A1205		
7	土の締め固め試験 JIS A1210		突固めによる室内試験
8	路床土CBR試験 JIS A1211		室内試験
9	その他		
熔融スラグ入り再生砕石			
1	修正CBR試験		舗装試験法便覧参照
2	土の液性限界・塑性限界試験方法 JIS A1205		
3	粗骨材のすりへり試験方法 JIS A1121		
4	骨材のふるい分け試験方法 JIS A1102		

組立マンホールコンクリート部材（各種）			
1	日本工業規格表示許可書の写し		
2	構造図		
3	セメント試験成績表		
4	骨材試験成績表		
5	骨材のアルカリシリカ反応試験成績表		
6	コンクリート示法配合表、圧縮強度試験成績表		
7	普通鉄線検査成績表		
8	マンホール用付属部品寸法図等		
9	シーリング材、緊結材、ブーツ、試験成績表		
10	その他		
マンホールふた・足掛金物			
1	構造図		
2	製品、材質試験		
3	性能試験成績表		性能規定書による
4	その他		
汚水ます（各種）			
1	構造図（寸法図）		
2	試験成績表（引張・偏平・負圧・耐薬品製・ピカット軟化温度）試験		塩ビ製品
3	その他		
舗装用合材、乳剤			
1	概要、試験項目、方法、日時、調査者、結果一覧		
2	アスファルトコンクリート材料試験		
3	コールドビン骨材試験		
4	混合物の理論最大密度計算書		
5	アスファルト合材配合試験		
6	その他		
鋼管（推進用、ディープウェル）			
1	日本工業規格表示許可書の写し		
2	鋼材検査証明書（ミルシート）		
3	その他（カタログ）		
鋼材（鋼矢板、ライナープレート等）			
1	日本工業規格表示許可書の写し		
2	鋼材検査証明書（ミルシート）		
3	構造図		
4	構造計算書		
5	その他（カタログ）		

仮設鋼材（鋼矢板、支保工、覆工等）			
1	鋼材検査証明書(ミルシート)		
2	構造図		
3	構造計算書		
4	その他(カタログ)		
薬液注入工（現場注入試験）			
1	注入試験目的		
2	注入試験内容		
3	注入試験箇所(範囲)		
4	流入試験測定項目 (ゲルタイム、注入圧、注入時間、単位吐出量、P-Q管理図、 注入有効範囲、ゲル化の状態)		
5	水質試験、土質試験(必要に応じ)		
6	その他		
薬液注入工（施工計画）			
1	薬液注入工の目的		
2	環境調査と対策(水質監視計画)		
3	使用薬液の種類と成分(品質証明添付)		
4	注入範囲と注入間隔(計画図添付)		
5	施工数量		
6	注入方法(現場配合、使用機器、ゲルタイム、注入順序)		
7	施工管理(品質、数量、ゲルタイム、配合試験、注入圧、注入量の管理)		
8	発生土、泥土の処分方法及び排水等の処理方法		
9	材料の搬入保管と発生材料の処分方法		
10	実施工程表		
11	注入工事の責任者(注入工事の経歴)		
12	調査工事(特に指定のある場合)		
13	観測井の設置		
14	その他		
各種注入材（ベントナイトモルタル、裏込注入材、滑材、泥水材、薬注材）			
1	試験成績表		
2	標準配合表		
3	標準溶液の性質		
4	安全性		
5	その他		

家屋調査工			
1	家屋調査目的		
2	家屋調査内容		
3	家屋調査区域(範囲)		
4	家屋調査項目		
5	写真撮影要領		
6	その他		
発生土処分地、産業廃棄物処分地			
1	位置図(運搬経路記載)		
2	処理委託契約書・処分業・運搬業許可書		
3	周辺の土地利用(井戸、農地、養漁池等)		
4	安全管理(土砂の流出、水質検査、交通等)		
5	その他		

施工計画書記載事項一覧

添付書類名（試験、検査結果表）			摘要
1	工事概要		
2	実施工程表（ネットワーク、出来高予定）		
3	稼働日数		
4	労務計画		
5	現場組織表		
6	主要機械		
7	主要資材		
8	施工方法		
9	技術管理		
10	出来形管理計画表		
11	品質管理計画表		
12	写真管理計画表		
13	緊急時の対策		
14	交通管理（交通処理計画）		
15	安全管理		
16	仮設備計画		
17	環境対策		
18	家屋調査		
19	発生土処分地、産業廃棄物処分地（許可書、契約書含む）		
20	再生資源利用促進計画書		
21	その他（監督員の指示による）		

検査書類一覧

書類名		提出	摘要
日報・記録・調査			
1	工事日報・安全日報		
2	推進工事日報		
3	薬液注入工事日報(チャート紙)・調書		
4	地盤変動チェック日報・調書		
5	地下水水位観測記録・調書		
6	井戸及び水質調査(事前・事後)・調書		
7	揚水運転管理日報・調書		
8	可燃ガス測定記録		
9	その他		
使用材料集計表			
1	硬質塩化ビニール管(リブ管含む) 入荷・設計数量対比一覧表		納品書添付
2	鉄筋コンクリート管 //		//
3	レディーミクスト・コンクリート //		//
4	砂 //		//
5	山砂・砕砂・粗砂・再生コンクリート砂 //		//
6	山土砂 //		//
7	栗石(割栗石) //		//
8	砕石(基礎・防護・路盤材) //		//
9	マンホール(鉄蓋・各種) //		//
10	公共ます //		//
11	鋼管(推進用・ディープウェル・ウエルポイント) //		ミルシート・納品書
12	足掛け金物 //		納品書添付
13	舗装用合材 //		//
14	鋼矢板搬入・搬出 入荷・設計数量対比一覧表		納品書添付
15	支保工材(鋼材)搬入・搬出 //		//
16	覆工版・受桁 搬入・搬出 //		//
17	鋼材(鉄筋・ライナープレート等) //		ミルシート・納品書
18	その他		

出来形管理		
1	平面・縦断・横断出来形図、同調書	設計と対比
2	管布設基礎工、埋め戻し工出来形図、同調書	〃
3	マンホール出来形図、同調書(シュミット測定含む)	〃
4	公共ます出来形図、同調書	
5	推進工出来形図、同調書	設計と対比
6	道路復旧工(舗装)出来形図、同調書	コア採取 〃
7	付帯工(道路・河川構造物出来形図、同調書)	
8	その他	
品質管理		
1	管布設工日常管理表(縦断・延長)	
2	推進工日常管理表(縦断・延長・法線・土質)	
3	コンクリート圧縮強度等試験一覧表	
4	使用材料寸法検査表	
5	現場密度試験結果成績表	
6	その他	
工程管理		
1	全体工程表(計画と実績の対比)	
2	月間工程表(計画と実績の対比)	
3	週間工程表	監督員の指示のあった場合
その他		
1	工事写真(写真説明図添付)	
2	工事施工計画書	
3	工事施工承諾願い	
4	工事使用材料関係書類	
5	試掘、他占用物件調査計画書・結果報告書	
6	他占用物件管理者との協議書	
7	家屋事前・事後調査報告書	所有者の確認
8	発生土処分地、産業廃棄物処分地(許可書、契約書含む)	
9	マニフェストD票写し	
10	竣工図(図面冊子、マイクロフィルム等)	
11	特記事項処理状況報告書	
12	その他	

参考		
立坑関係調書		
1	矢板支保工数量調書	納入伝票
2	ライナープレート数量(ミルシート添付)	
3	覆工板、受桁	納入伝票
薬注関係調書		
1	資材納入伝票	
2	注入日報、チャート紙	
3	注入実施一覧表(設計対比)	
ディープウェル関係調書		
1	鋼管調書(ミルシート、納入伝票)	
2	ストレーナ加工調書・伝票	
3	埋め戻し材納入伝票	
4	ジャミ砂納入伝票	

資材入荷集計表						
工事名						
種別				作成者	印	
番号	入荷日	数量		番号	入荷日	数量
1				21		
2				22		
3				23		
4				24		
5				25		
6				26		
7				27		
8				28		
9				29		
10				30		
11				31		
12				32		
13				33		
14				34		
15				35		
16				36		
17				37		
18				38		
19				39		
20				40		

資材検収表					
工事名					
種別				作成者	印
回	確認日	数量	累加数量	摘要	確認者
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
合計					
備考					

薬液注入工施工管理資料(実施一覧表)			注入 方式	<input type="checkbox"/>	二重管单相式	注入 材料	<input type="checkbox"/>	アルカリ系	<input type="checkbox"/>	中・酸性系	代理人	主任
				<input type="checkbox"/>	二重管複相式		<input type="checkbox"/>	無機系	<input type="checkbox"/>	有機系		
<input type="checkbox"/>	ダブルハッカー式	<input type="checkbox"/>		懸濁型	<input type="checkbox"/>		溶液系					
工事名												
当初設計総量(kl)		実施総量(kl)		差(kl)		作成者						印
注入箇所	当初設計数量(kl) A			計画数量(kl)			実施数量(kl) B			差 (A-B)	摘要	
	ショート	ロング	合計	ショート	ロング	合計	ショート	ロング	合計			
合計												

注 入 日 報

(/)

番号: _____

〔令和 年 月 日〕 天候:

工事名: _____

注入方式	<input type="checkbox"/>	二重管単相式	<input type="checkbox"/>	アルカリ系	<input type="checkbox"/>	中・酸性系
	<input type="checkbox"/>	二重管複相式	<input type="checkbox"/>	無機系	<input type="checkbox"/>	有機系
	<input type="checkbox"/>	ダブルパッカー式	<input type="checkbox"/>	懸濁型	<input type="checkbox"/>	溶液型

作成者		印

施工箇所	注入孔 No.	注入深度 (区間) GL-m	ステップ数	記録計機番 No.	チャート No.	注入量(Q)		記事	勤務体制					
						種別			注入量計	作業時間				
						ショート	ロング			開始		終了		
									時	時	時	時	時	
									ムゲ					
									の					
									測					
									定					
									イ					
									特記事項					
日計														
累計														

【 進捗率: % 】	水ガラス管理表(単位:kg/)				硬化剤管理表(単位:kg/)							
	【 設計注入量: kl 】	入荷量	使用量	残量								
					入荷量	使用量	残量	入荷量	使用量	残量		
	【 実施設計量: kl 】	日計										
	累計											

ウェルポイント運転日報		令和 年 月 日				工事名		作成氏名者		印					
ポンプ 運 転 時 間										時間	天候	気温	水温	雨量	
事項	時刻	0	3	6	9	12	15	19	21			0時～6時	℃	℃	mm
No.1 ヒューガルポンプ	排水量L/min											6時～12時			
No.1 バキュームポンプ	吸圧mm/Hg											12時～18時			
No.2 ヒューガルポンプ	排水量L/min											18時～24時			
No.2 バキュームポンプ	吸圧mm/Hg											動 力	電力	KHW	
No.3 ヒューガルポンプ	排水量L/min										その他				
No.3 バキュームポンプ	吸圧mm/Hg														
No.4 ヒューガルポンプ	排水量L/min														
No.4 バキュームポンプ	吸圧mm/Hg												労 力		
地下水位 観測	No.1											技術者		人	
	No.2											運転士		人	
基準 TP	No.3											従業員		人	
	No.4											計	人		
記事（事故その他）												責任者		印	

Ⅶ. その他資料

日本下水道協会認定工場製品等一覧

(認定工場製品等は、2025年11月現在の材料)

日本下水道協会・認定資機材名		規格番号	最終改正年月
1	下水道用鉄筋コンクリート管	JSWAS A-1	2011.12
2	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管	JSWAS A-2	2018.7
3	下水道シールド工法用鋼製セグメント	JSWAS A-3	2024.4
4	下水道シールド工法用コンクリート系セグメント	JSWAS A-4	2024.4
5	下水道用鉄筋コンクリート卵形管	JSWAS A-5	2018.3(改廃)
6	下水道小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管	JSWAS A-6	2000.12
7	下水道ミニシールド工法用鉄筋コンクリートセグメント	JSWAS A-7	2005.4
8	下水道推進工法用ガラス繊維鉄筋コンクリート管	JSWAS A-8	2013.10
9	下水道用台付鉄筋コンクリート管	JSWAS A-9	2006.5
10	下水道用鉄筋コンクリート製小型組立マンホール	JSWAS A-10	2006.11
11	下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール	JSWAS A-11	2005.4
12	下水道用鉄筋コンクリート製ボックスカルバート	JSWAS A-12	2012.11
13	下水道用プレストコンクリート製ボックスカルバート	JSWAS A-13	2012.11
14	下水道用硬質塩化ビニル管	JSWAS K-1	2010.3
15	下水道用強化プラスチック複合管	JSWAS K-2	2023.4
16	下水道用硬質塩化ビニル卵形管	JSWAS K-3	2012.6(改廃)
17	下水道推進工法用硬質塩化ビニル管	JSWAS K-6	2009.3
18	下水道用硬質塩化ビニル製ます	JSWAS K-7	2008.1
19	下水道用ポリプロピレン製ます	JSWAS K-8	2008.1
20	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール	JSWAS K-9	2008.1
21	下水道用レジンコンクリート製マンホール	JSWAS K-10	2008.1
22	下水道用レジンコンクリート管	JSWAS K-11	1998.1
23	下水道推進工法用レジンコンクリート管	JSWAS K-12	2016.8
24	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管	JSWAS K-13	2003.2
25	下水道用ポリエチレン管	JSWAS K-14	2018.8
26	下水道用リブ付ポリエチレン管	JSWAS K-15	2014.12
27	下水道内挿用強化プラスチック複合管	JSWAS K-16	2013.10
28	下水道用硬質塩化ビニル製リブ付小型マンホール	JSWAS K-17	2022.7
29	下水道用ダクタイル鋳鉄管	JSWAS G-1	2016.2
30	下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管	JSWAS G-2	2016.2
31	下水道用鋳鉄製防護ふた	JSWAS G-3	2005.7
32	下水道用鋳鉄製マンホール蓋	JSWAS G-4	2023.5
33	強化プラスチック複合管	JIS A5350	2006.7
34	プレキャスト鉄筋コンクリート製品	JIS A5372	2016.4
35	プレキャストプレストレストコンクリート製品	JIS A5373	2016.4
36	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K6741	2016.10
37	水輸送用塗覆装鋼管	JIS G3443	2020.5
38	水輸送用塗覆装鋼管異形管	JIS G3451	JISに無し
39	配管用炭素鋼管	JIS G3452	2019.6
40	ダクタイル鋳鉄管	JIS G5526	2014.11
41	ダクタイル鋳鉄異形管	JIS G5527	2014.11